国際社会学部の歩き方 2022

東京外国語大学

国際社会学部の歩き方

2022 年度入学生版

目　次

1. 国際社会学部へようこそ！（国際社会学部長　真島一郎）　・・・・・・・・・・・・2

2. 国際社会学部の 4 年間　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

3. 履修にあたっての注意点と履修モデル　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

4. 学内活動紹介　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

5. 学生によるゼミ案内　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

6. 学部賞受賞者紹介　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

7. 卒業後の進路・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

8. 学生生活で困ったら　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

9. 国際社会学部教員一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

『国際社会学部の歩き方』は、東京外国語大学国際社会学部の新入生を主な対象として、
授業の履修の仕方や大学での学び方を知るためのガイドブックとして作成しています。

1. 国際社会学部へようこそ！（国際社会学部長　真島一郎）

本学国際社会学部へのご入学、おめでとうございます。

これから4年間のキャンパスライフを送るうえで、国際社会学部では、何をどのように学んでいけばよいのでしょう。大学という場でみずからの思考を深めることに、みなさんはいま、さまざまな期待をふくらませ、またちょっぴり不安をおぼえているかもしれません。私たち学部の教員は、そんな新入生のみなさんへの贈り物として、本冊子『国際社会学部の歩き方』を、手作り感が伝わるように毎年心を込めて編集してきました。

『歩き方』は、『履修案内』の内容を具体例に即して分かりやすく説明したガイドブックです。みなさんが国際社会学部生として、これから段階をふんで学修を積んでいくうえで具体的なイメージがもてるような歩き方、ロードマップがこの冊子には示されているのです。とくに今年度版の目玉は、9-10ページの「コース別履修モデル」ですね。学部の教員で手分けして、割と苦労して作った履修モデルなんだからっ！ みなさんは、自分の知的関心をふまえて授業履修のパターンを多彩なかたちで組み立てていくことができるはずです。そのオーダーメイドな学びの豊かさこそが、国際社会学部のウリだからです。例にあげたモデルを参考に、個性と創造力に満ちた、自分だけの授業履修を考えてみてください。

「学生生活で困ったら」のページには、これから新生活に乗りだすみなさんに私たちから伝えておきたい情報を、ギュッと詰めこみました。日々の暮らしで悩みごとが生じても、どうかそれを特別なこととだは思わないでください。時間がぽっかり空いた時など、それぞれの窓口にふらり気軽に立ち寄ってみてください。

本学では、コロナ禍により一昨年度から授業の一部がオンライン化されました。そうした状況にあっても、大学のキャンパスとは、生身の人間どうしが知と感性をかよわせあう熱い空間、フォーラムであることに変わりありません。その熱気とハートをみなさんに今から感じてもらえるように、この冊子では、キャンパスにこだまする学生と教員のリアルな声を、学部のWelcome Messagesとして、なるべくふんだんに盛りこむよう心がけました。なかでも在学生の声が光っているように感じます。自分が国際社会学部で日々どのように学んできたのか、課外活動をどう楽しんでいるのか、ゼミではどんな対話の場がひらけたのか、卒業後の進路をどのように決めたのかなど、先輩たちの声、声、声の饗宴です。みなさんも、この大いなる饗宴＝シュンポシオンの一員になりました。国際社会で、世界で共に生きていくことの意味を、4年間をつうじてぜひ一緒に問い続けていきましょう。

2. 国際社会学部の4年間

東京外国語大学のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

1. 高度な言語運用能力：専攻言語に関し、読む、聞く、話す、書くという4技能で高度な言語運用能力を身に付けていること。 国際社会で活躍するに足る、十分な英語運用能力を身に付けていること。
2. 世界諸地域についての知識・教養：専攻する地域の文化・社会について、さまざまな観点から充分に学び、基礎的知識・教養を身に付けていること。
3. 現代社会を生きる力：現代社会を生きる上で必要な幅広い知識・教養と、世界において日本を正しく紹介することのできる日本発信力を身に付けていること。
4. 専門的な知識：世界諸地域の言語・文化・社会の仕組みを解明する諸学問分野や、国際的な諸問題を超域的な視点から扱う諸学問分野のうち、所属する学部・コースが扱う分野についての専門的な知識を身に付けていること。
5. 主体的に考え、行動し、発信する力：ものごとを探求し、客観的に分析する力、さまざまな情報を体系化して整理する力、それらをわかりやすく表現する力を身に付けていること。短期・中長期の留学やインターンシップ等への参加の経験を通じ、主体性と世界の人々と協働する行動力を身に付けていること。

国際社会学部の 13 の地域／ 27 の専攻言語

皆さんは入学とともに専攻する地域と言語をもちます。自らの地域と言語を大切にして、大学での学びを組み立てて下さい。

入学から卒業まで

皆さんの履修する授業は「世界教養プログラム」と「専修プログラム」に分けられます。世界教養プログラムは言語文化学部、国際日本学部と共通のカリキュラムです。専修プログラムは国際社会学部独自の授業で構成されています。ここでは、履修の大まかな流れをつかむための枠組みだけを示しますので、授業の取り方は『履修案内』をよく読んでください。

卒業までには定められた単位を修得する必要があり、これを卒業所要単位といいます。3 年次への進級のためには 2 年次の終わりまでに一定の単位を修得する必要があり、これを進級要件といいます。

卒業所要単位と進級要件は以下の表の通りです。言語科目の単位は専攻地域によって異なるので、『履修案内』で確認をしてください。専修プログラムの「導入科目」「概論科目」「専門科目」については、3 年次から所属するコースの授業の単位を一定数以上含むことが必要になります。

卒業所要単位の内訳

注：この卒業所要単位の内訳は 2019 年度以降の入学生に適用されるものです

			進級要件単位数	卒業所要単位数	
世界教養プログラム	言語科目	専攻言語	15 ※	36 以上※	※言語科目の履修の仕方は地域ごとで異なるので『履修案内』等でよく確認をしてください
		諸地域言語			
		教養外国語			
		GLIP 英語科目	-		
	地域科目	地域基礎	6	6 以上	地域ごとに指定される授業があります
	基礎科目	基礎リテラシー	1	1	基礎科目は 1 年生のうちに履修してください
		基礎演習	2	2	
	教養科目	教養科目	-	16 以上	
専修プログラム	導入科目	導入科目	8	8 以上	所属したコースから 2 単位以上
	概論科目	概論科目	-	6 以上	所属したコースから 4 単位以上
	専門科目	講義科目（専門演習）	-	24 以上	所属したコースから 12 単位以上
		本ゼミ	-	4	※指導教員の専門演習が本ゼミ
		卒業研究演習	-	4	
卒業研究			-	8	
関連科目			-	0 以上	他学部・他大学の授業は関連科目の単位になります
卒業所要単位数　合計				125 以上	

コースとゼミの選択【2 年次　春学期】

2 年次の春学期終了時には、皆さんの希望にもとづいてコースとゼミが決まります。2 年生春学期の早い時点から、コースとゼミを選ぶための説明会や意向調査が始まります。コースは自分が何を専門的に学びたいかによって選択します。選択するコース・ゼミについては 1 年次から考え始めるようにしましょう。とくに導入科目、教養科目の履修に際しては、2 年次以降で専門的に学びたいことを意識して、関連の深い授業を履修するように心がけて下さい。

国際社会学部の 3 コース

■地域社会研究コース

対象とする地域の時間軸（歴史）と空間軸（地図）を柔軟な視点で捉える方法を身につけ、地域にかかわりながらそのリアルを学ぶコースです。

■現代世界論コース

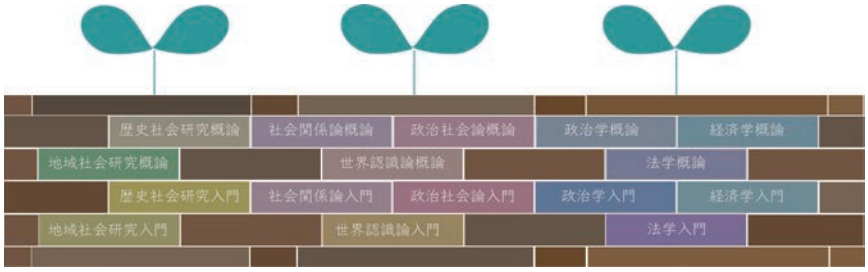
哲学、政治学、ジェンダー論、レイシズム・スタディーズなどのオーソドックスかつ最先端の研究に触れながら、現代世界の諸問題を批判的に考察する方法を学ぶコースです。

■国際関係コース

社会科学の方法論を体系的に学び、法学、政治学、経済学、国際協力論などの学問分野を専門的に学修し、国際社会を生き抜く知的技術を身につけるコースです。

コースの違いは、「専門分野」を極める学生生活の後半の学びで特に重要です。

ただ、専門的視座は異なるにせよ、3 コースは花壇に並び咲く 3 輪の花弁がふれあうように、多様なかたちでテーマを重ねています。みなさんは、自分の掌のなかにあるテーマの種を、どのように育て、どのような花を咲かせたいですか。



地域社会研究コース　現代世界論コース　国際関係コース

※それぞれの科目には、異なる題目の授業が複数含まれます

国際社会学部の導入科目（2022 年度）

【シラバス検索の方法】

大学 HP のトップページ（→訪問者別をクリック）

→在学生の方へをクリック

→下の方にスクロールすると→シラバス検索

1、2 年生の前半では 3 コースの視座を導入科目の授業で一通り学びます。国際職業人となるための幅広い土台作りを心がけ、自分だけの学びのスタイルを作り上げましょう。

春学期・夏学期開講

科目名	担当者	学期	曜限	授業形態
歴史社会研究入門 1	福嶋　千穂	春学期	水 4	オンライン
歴史社会研究入門 1	篠原　琢	夏学期	集中	対面
政治社会論入門	山岡　龍一	春学期	金 1	オンライン
世界認識論入門	梁　英聖	春学期	木 2	オンライン
社会関係論入門	五十嵐　ミュゲ	春学期	水 3	オンライン
法学入門 1	鈴木　美弥子	春学期	金 1	オンライン
政治学入門 1	松永　泰行	春学期	火 1	対面
経済学入門 1	菊地　和也	春学期	金 1	オンライン

秋学期・冬学期開講

科目名	担当者	学期	曜限	授業形態
地域社会研究入門 1	小川　英文	秋学期	水 3	オンライン
地域社会研究入門 2	左右田　直規	秋学期	水 4	オンライン
歴史社会研究入門 2	巽　由樹子	秋学期	水 3	オンライン
政治社会論入門	山岡　龍一	秋学期	金 1	オンライン
世界認識論入門	フィゲロア	秋学期	月 5	対面
社会関係論入門	金　富子	秋学期	木 5	対面
法学入門 2	鈴木　美弥子	秋学期	金 1	オンライン
法学入門 2	根岸　陽太	秋学期	月 1	オンライン
政治学入門 2	若松　邦弘	秋学期	月 1	オンライン
政治学入門 3	藤田　将史	秋学期	月 1	オンライン
政治学入門 3	山崎　周	秋学期	未定	オンライン
経済学入門 2	入谷　聡子	秋学期	月 4	オンライン

※ 3 コースを色分けしてあります。新型コロナ感染対応などの理由により、時間割や授業形態が変更になる可能性もあります。シラバスや学務情報システムをこまめにチェックしてください。

Attention!

各授業の成績評価にかかわる「試験」は、授業内の小テスト、レポートや期末試験などさまざまな方法で行われます。そのいずれにおいても、不正行為はしてはいけません。成績評価については各授業ごとにルールがあります。教員の指示をよく聞いて試験に臨みましょう。不正行為が確認された場合、同一学期あるいはその年度に受講した全ての科目の成績が不合格になることもあります。

国際社会学部で社会を学ぶ

■インターンシップ

就職活動につながるインターンシップ以外にも、広く社会や仕事を知るためのインターンシップの機会が用意されています。海外でのインターンシップの機会もあるので、積極的に参加してください。

■公務員試験対策授業

国際社会学部では、国家公務員総合職試験の受験科目区分に対応した授業がそろっています。外務省専門職、地方公務員の試験にも対応しています。

■ボランティア活動

ボランティア活動は、VOLAS（ボランティア活動スペース：研究講義棟２階 206 室）で紹介をしているほか、活動の相談、サポートも行っています。

（写真提供：藤田玲音さん）

Welcome Messages

藤田 玲音さん
北西ヨーロッパ／英語
地域社会研究コース
伊東ゼミ・３年生

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

どんな大学生活が待っているのか胸を弾ませていることでしょう。

大学１年の夏休み、私は、インドネシアのジョグジャカルタに行き、住宅支援のボランティア活動に参加しました。２週間をかけて現地の大工さんと協力しながら小さな村に一軒家を２棟建てました。初めての発展途上国、ボランティアの現場。慣れない異文化での生活の中で、日本での「当たり前」を再認識しながら、私がこれまで見てきた世界がいかに狭いものだったか深く考えました。皆さんは、台風のニュースを見て何を思うでしょうか？安くて美味しいチョコレートを食べて何を感じますか？身近な友人や家族にも、皆さんが意識していない（しようとしていない）世界にも誰かの助けを必要としている人は必ずいます。私たちは、周りからの恩恵を受けて初めて生きていける存在だからです。何かが「無い」ことにはすぐに気付けますが、何かが「有る」ことにはなかなか気が付けないのが私たちです。

日常に溢れる有り難い物事を次へと繋げていくこと（Pay forward）がボランティアの本質だと思っています。皆さん、東京外国語大学へようこそ！国際社会学部の歩き方を考える一助になれば幸いです。

皆さんの学びに溢れる日々を願っています。

現地のコーディネーターとの１枚。筆者は右端。
現地で買ったバティックのパンツを履いています。

国際社会学部で世界を学ぶ

■留 学

ショートビジット、派遣留学、休学留学など多様な留学の機会があります。1 年生の夏学期から参加できるプログラムもあります。

■英語による授業

英語によって行われる授業は世界教養プログラムの GLIP 英語科目のほか、専修プログラムでも多く開講されています。世界中から外語大に学びにきている留学生と交流するチャンスでもあります。

■メディア翻訳

専攻言語によっては、メディアの翻訳を通して現地理解と語学力を高める授業も行われています。

Welcome Messages

伊藤 成美 さん
東南アジア／カンボジア語
地域社会研究コース
菊池ゼミ・3 年生

新入生のみなさんご入学おめでとうございます。

私はカンボジアの王立プノンペン大学に 9 か月間の派遣留学をしています。授業はオンライン授業ですが、現地に渡航しホームステイをしながら授業を受けています。新型コロナの影響で渡航が一年遅れ、昨年は日本で留学先大学のオンライン授業を一学期間受けていました。現地に渡航できてもオンライン授業が続くのは残念でしたが、現地の生活を体験できたり、日本に留学に来ていた友人と再会できたり、日本にいてはできないことがたくさんありました。今まで学んできたカンボジアの文化や社会についての知識を実際の様子と照らし合わせることで理解を深めることができます。また、普段の会話の中でうまく通じなかったり聞き取れなかったりして大変なこともありますが、そこから学ぶことが多く、カンボジア語の運用能力が上がっていると思います。

留学では、大学の勉強以外の普段の生活の中で学ぶことがたくさんあります。コロナ禍でも現地に渡航できたことに感謝して、残りの留学生活でたくさんのことを吸収できるようにしたいです。

カンボジアの世界遺産「アンコールワット」にて

乙川 巧磨 さん
東南アジア／ベトナム語
地域社会研究コース
菊池ゼミ・4 年生（21 年度卒）

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。

メディア翻訳の授業ではご自身の専攻地域の報道機関のネット記事の中から興味のある記事を選択し翻訳する形式の授業で、様々なジャンルの記事を翻訳することができます。翻訳された記事はネット上で公開されます。現地の言葉でニュースを読むことができる授業であり、言語の学習のみならず、現地の「今」を知るためにとても役立っていました。また、私たちが普段目にする日本語のニュースと視点が異なっていたりすることもあるので、面白い発見がたくさんある授業です。メディア翻訳を履修したことで現地の最新情報を頭に入れることができ、それをきっかけとして専攻地域に対する理解を更に広く・深くすることができたと考えています。皆さんの興味に沿って様々なことを深く学べる環境が整っているのが東京外国語大学国際社会学部の魅力だと感じています。メディア翻訳の授業を活用し、現地の言語を使って最新情報を集め、ご自身の興味の幅を広げていってください。

1 年次にベトナムへのショートビジット中に訪れた世界遺産ハロン湾での 1 枚です

3. 履修にあたっての注意点と履修モデル

4 年間の履修の流れ

■1、2年次の履修計画を立てるときのポイント

1. 時間割を詰め込みすぎない！（大学の授業は予習・復習・課題がもれなくついてくる）
2. 進級に関わる必修科目は特に注意（専攻言語、地域基礎、基礎リテ、基礎演習は基本）
3. 導入科目はバランスよく学んでください（希望のコース・ゼミに進めるとは限らない）
4. 教養外国語は２年生から履修がおすすめ（新しい外国語を複数学ぶのはたいへんです）

不安な時は・・・
履修相談コーナーで教員が相談にのります
4 月 11 日（月）11:00-12:30
4 月 12 日（火）11:00-12:30
@ 本部管理棟大会議室

■無事卒業するために忘れないで欲しいポイント

1. 言語科目の卒業所要単位は 36 単位以上です（語学は1コマ1単位。けっこう多いです）
2. 必修の GLIP 英語／教養外国語は取り方にルールがあります（本当に本当に要注意）
3. 必修の言語以外に一定数の選択必修の語学の単位を修得する必要があります
4. 導入・概論・専門科目は所属コースの科目から一定数の単位を修得する必要があります
5. 自分の入学年度の履修案内にしたがって履修してください（年度によって異なる場合あり）
6. 所要の 125 単位ピッタリで卒業しようとしないでください！（取りこぼすと挽回不能です）

コース別履修モデル

　では、具体的にどのように授業を履修したらよいでしょうか。ここでコース別の履修モデルを紹介します。履修計画を立てる参考にしてください。もちろん、興味や希望する進路、また専攻地域や専攻言語によって履修内容は人それぞれです。自分なりの外大生活を組み立ててください。

地域社会研究コース

1年生　2年生　3年生　4/5年生

RS Model 1　北西ヨーロッパ・北アメリカ地域 × 歴史　「ヨーロッパの歴史を深く探求したい！」

1年生	2年生	3年生	4/5年生
専攻言語 I（英語 I） ショートビジット リーズ大学（英）	専攻言語 II（英語 II） 教養外国語（ドイツ語）	専攻言語 III（英語 III）教養外国語（ドイツ語）	教養外国語（スペイン語）
ブリテン諸島の長い 18 世紀 基 連合王国の近現代史 基 近現代イギリスにおける健康と病気の歴史 基	ジェンダーから読み直すアメリカ史 (1) 基 ジェンダーから読み直すアメリカ史 (2) 基 周縁から考えるグローバル・ヒストリー 専	19・20 世紀の西洋／スペイン美術史 専 感情史の理論と実践 専 ハプスブルク帝国史研究 専 初期ヨーロッパ論 専 留学 ロンドン大学（英）	近世スペイン美術史 専 Iberian Studies 専 アメリカの女性史 専
歴史学入門 入　西洋政治思想史 入 世界史を開く 入	現代史と映像 入　文書・画像史料論 専 国際政治学入門 入　国際政治理論 専	西欧現代政治論 専 現代世界論概論 I A 専 歴史にとって記憶の問題とは何か 専	「ふつうの人々」とナチ体制 専 ヨーロッパ国際関係史 専 進路　出版社
基礎リテラシー・基礎演習 教養科目	教養科目	専門演習 「近代イギリスの政治・社会・文化」	卒論演習 卒論テーマ ～戦間期イギリスの政治と社会～

RS Model 2　東アジア地域 × 現代社会　「経済大国中国のリアルが知りたい！」

1年生	2年生	3年生	4/5年生
専攻言語 I（中国語 I） GLIP 英語	専攻言語 II（中国語 II） GLIP 英語 ショートビジット 北京語言大学（中）	専攻言語 III（中国語 III）	教養外国語（朝鮮語）
現代中国の主要な課題 基 中国の伝統と現代 基 台湾の歴史と社会 基	民族と民族問題の諸相 専 地域社会と経済生活 専 香港を通してみる中国近現代の歴史と社会 専	中台関係論 専 現代台湾政治 専 近現代華僑華人史 専 現代中国経済論 専	現代韓国の文化と社会 専 朝鮮の宗教と社会 専
地域研究の最先端 I・II 入 入 レイシズム・スタディーズ入門 入	歴史学入門 入　マクロ経済学入門 入 労働と生存の社会学 専	国際金融概論 専　貿易と直接投資 専 「性売買」とジェンダー 専	国際経済学 1・2 専 専 東アジアの経済発展と開発経済学 専 進路　IT 関連
基礎リテラシー・基礎演習 教養科目　山形スタディーツアー	教養科目	専門演習 「中国の歴史と社会と文化」	卒論演習 卒論テーマ ～慰安婦問題と東アジア地域～

RS Model3　イベリア・ラテンアメリカ × 女性　「途上国の女性の地位向上のために働きたい！」

1年生	2年生	3年生	4/5年生
専攻言語 I（スペイン語 I） GLIP 英語	専攻言語 II（スペイン語 II） GLIP 英語	専攻言語 III（スペイン語 III）	教養外国語（ポルトガル語）
ラテンアメリカ経済入門 基 ブラジル地域研究入門 基 美術・建築からみるスペイン史 基	ジェンダーから読み直すアメリカ史 基 近代世界の形成 専 地域社会と経済生活 専	ラテンアメリカの歴史と社会 専 ブラジルの人と社会 専 国際社会の中のブラジル 専 東南アジア地域研究特論 専 留学 メキシコ国立大学（墨）	アメリカの女性史 専 カナダの歴史 専 アフリカ人類学 専
地域研究の最先端 I・II 入 入 ジェンダー論入門 入	現代史と映像 入　法学入門 入 クイア・スタディーズ 専	国際法入門 専 Gender and Globalization 専 国際移動・移民とジェンダー 専	国際法 専 実務的側面から見た国際機関 専 進路　海外大学院
基礎リテラシー・基礎演習 教養科目　国連スタディーツアー	教養科目	専門演習 「アメリカ地域研究演習」	卒論演習 卒論テーマ ～米墨国境での移民女性への暴力～

RS Model 4　アフリカ地域 × 貧困　「現地と国際社会、双方の視点から貧困問題を考えたい！」

1年生	2年生	3年生	4/5年生
専攻言語 I（英語 I） 諸地域言語	専攻言語 II（英語 II） 教養外国語（フランス語）	専攻言語 III（英語 III）教養外国語（フランス語）	教養外国語（ポルトガル語）
アフリカ地域研究入門 基 基 アフリカの歴史 専	周縁から考えるグローバル・ヒストリー 専 地域社会と経済生活 専 中東／西アジア・北アフリカ地域基礎 専	民族誌から学ぶアフリカの生活世界 1 専 アフリカと開発 専 アフリカ文化論 専 アフリカ人類学 専 留学 プロテスタント人文・社会科学大学（ルワンダ）	民族誌から学ぶアフリカの生活世界 2 専 アフリカの宗教とエスニシティ 専 アフリカ農村社会学 専
地域研究入門 入　地域研究の方法と実践 入 レイシズム・スタディーズ入門 入	人文地理学の基礎を学ぶ 専 マクロ経済学入門 入　国際金融概論 専	マクロ経済学 専 国際協力論 専 現代世界における「フロンティア空間」の動態 専	アフリカ開発援助政策 専 開発マクロ経済学 専 進路　コンサルティング
基礎リテラシー・基礎演習 教養科目　山形スタディーツアー	教養科目	専門演習 「アフリカ地域ゼミ」	卒論演習 卒論テーマ ～アフリカの貧困と投資～

RS Model 5　中央アジア地域 × ロシア地域 × 中東地域　「世界を学び尽くしたい！」

1年生	2年生	3年生	4/5年生
専攻言語 I（モンゴル語 I） GLIP 英語	専攻言語 II（モンゴル語 II） 教養外国語（ロシア語） ショートビジット モンゴル国立大学（モ）	専攻言語 III（モンゴル語 III）教養外国語（ロシア語）	教養外国語（アラビア語）
モンゴルの遊牧と前近代史 基 近現代のモンゴル 基 「伝統文化」と民主化 基	ロシア・中欧・中央アジアの言語・文化・社会 基 民族と民族問題の諸相 専 モンゴル近現代史 (2) 専	国際政治の中の中東 基 モンゴル近現代史（1）専 中央アジア史概説 専　中央アジアと東アジア 専 現代ロシア政治・外交 専	ロシア経済の歴史的考察 専 中央アジアにおける中露外交の歴史 専 イスラーム世界と「技術」専 アラブ地域政治事情 専
歴史学入門 入　世界史を開く 入 レイシズム・スタディーズ入門 入	政治分析入門 入　文書・画像史料論 専 国際秩序論 専	紛争解決論 専 「歴史にとって記憶の問題とは何か 専	エスノ・ポリティクス 専 進路　商社
基礎リテラシー・基礎演習 教養科目	教養科目	専門演習 「モンゴル地域研究演習」	卒論演習 卒論テーマ ～ 20 世紀ユーラシアと社会主義～

現代世界論コース

CG Model 1　中央ヨーロッパ地域 × 環境「環境先進国ヨーロッパの経験から学びたい！」

- 専攻言語Ⅰ（ドイツ語Ⅰ）
- GLIP 英語
- ショートビジット ミュンヘン大学（独）
- 中世・近世ドイツ・ヨーロッパ史 基
- ドイツ語圏の文化 基
- 考える世界史 基
- 歴史学入門 入
- 西洋政治思想史 入
- 現代史と映像 入
- 基礎リテラシー・基礎演習
- 教養科目

- 専攻言語Ⅱ（ドイツ語Ⅱ）
- 教養外国語（フランス語）
- ドイツ近現代史 基
- 中東欧国際関係史 専
- 政治学原論 入
- 国際政治学入門 入
- 文書・画像史料論 専
- 現代世界と差異 専
- 政治理論史 専
- 教養科目

- 教養外国語（フランス語）
- 現代ヨーロッパにおける戦争の記憶 専
- 留学 チューリッヒ大学（瑞）
- 現代世界論概論ⅠA 専
- 自然と社会の歴史 専
- 環境保全論Ⅰ・Ⅱ 専 専
- 環境保護・脱原発のドイツ・ヨーロッパ史 専
- 専門演習
- 「現代社会史研究演習」

- 教養外国語（イタリア語）
- 感情史の理論と実践 専
- 社会史の方法「国民」の社会史 専
- 感情史とは何か 専
- 歴史にとって記憶の問題とは何か 専
- 西欧現代政治論 専
- 進路　メーカー
- 卒論演習
- 卒論テーマ ～ヨーロッパにおける環境意識の変遷～

CG Model 2　東南アジア第１地域 × ジェンダー「エンタメ産業におけるジェンダー問題を考えたい！」

- 専攻言語Ⅰ（フィリピン語Ⅰ）
- GLIP 英語
- フィリピン研究入門１ 基
- フィリピン研究入門２ 基
- 東南アジア研究入門 基
- 現代世界と差異 入
- 地域研究の最先端Ⅰ 入
- レイシズム・スタディーズ入門 入
- 基礎リテラシー・基礎演習
- 教養科目
- 韓国スタディーツアー

- 専攻言語Ⅱ（フィリピン語Ⅱ）
- GLIP 英語
- ショートビジット デラサール大学（比）
- 地域社会と経済生活 専
- 東南アジア地域研究特論 専
- ジェンダー論 入
- ミクロ経済学入門 入
- 質的社会調査法 専
- 社会学原論 専
- クィア・スタディーズ 専
- 教養科目

- 専攻言語Ⅲ（フィリピン語Ⅲ）
- 島嶼部東南アジア政治経済史 専
- 東南アジアの物質文化 専
- 現代世界と差異 専
- 現代社会論 専
- メディア文化論 専
- Gender and Globalization 専
- 「性売買」とジェンダー 専
- 専門演習
- 主：「社会学専門演習」副：「社会史の方法演習」

- 教養外国語（韓国語）
- 東南アジアにおけるイスラームの文化 専
- サステイナビリティを考える 専
- ジェンダーとキャリア形成の国際比較 専
- ドキュメンタリー映画論 専
- 近代日本思想とアジア 専
- 進路　マスコミ
- 卒論演習
- 卒論テーマ ～アジアにおける女性とエンタメ～

CG Model 3　西南ヨーロッパ地域 × 移民・教育「移民のこどもたちを笑顔にしたい！」

- 専攻言語Ⅰ（フランス語Ⅰ）
- GLIP 英語
- パリ市を通して見るフランス社会 基
- フランス史概説 基
- History of Contempoary France 基
- 現代史と映像 入
- 政治学原論 入
- レイシズム・スタディーズ入門 入
- 基礎リテラシー・基礎演習
- 教養科目
- 国連スタディーツアー

- 専攻言語Ⅱ（フランス語Ⅱ）
- GLIP 英語
- アフリカ地域研究入門 基
- ナショナリズムとイスラーム主義 専
- 西洋政治思想史 入
- 政治学基礎 入
- 現代世界と差異 専
- 労働と生存の社会学 専
- 教職課程プログラム
- 教養科目

- 専攻言語Ⅲ（フランス語Ⅲ）
- 近世フランスにおける民衆の経験を考える 専
- 啓蒙の世紀における世論とアクターを考える 専
- 哲学・社会思想 専
- 「教育問題」と社会学 専
- 国際社会学 専
- 移民と国家の社会学 専
- 国際移動・移民とジェンダー 専
- 留学 パリ政治学院（仏）
- 専門演習
- 「国際社会学演習」

- 教養外国語（アラビア語）
- アフリカの宗教とエスニシティ 専
- エスノポリティクス１・２ 専 専
- 市民権／国籍の政治社会学 専
- 国際教育論 専
- 紛争解決論 専
- 進路　教育関連
- 卒論演習
- 卒論テーマ ～移民のこどもとフランス社会～

国際関係コース

IR Model 1　オセアニア地域 × 国際法「先住民の権利の問題を SDGs の観点から考えたい！」

- 専攻言語Ⅰ（英語Ⅰ）
- GLIP 英語
- オセアニア地域基礎 基
- オセアニアの歴史と社会 (1)(2) 基 基
- 法学入門 入
- 民法総論 入
- レイシズム・スタディーズ入門 入
- 基礎リテラシー・基礎演習
- 教養科目

- 専攻言語Ⅱ（英語Ⅱ）
- 諸地域言語
- 周縁から考えるグローバル・ヒストリー 専
- 地域研究入門 入
- 国際法概論Ⅰ・Ⅱ 専 専
- ミクロ経済学 入
- 現代世界と差異 専
- Theory and Practice of United Nations 専
- 教養科目
- 国連スタディーツアー

- 教養外国語（フランス語）
- 「先住民（族）」からみる 専
- 「先住民」から考える 専
- 留学 メルボルン大学（豪）
- 国際秩序論 専
- 国際法Ⅰ・Ⅱ 専 専
- 国際法事例研究 専
- グローバル・ガバナンス論と難民・移民 専
- 専門演習
- 「国際法演習」

- 教養外国語（イタリア語）
- カナダの歴史 専
- 実務的側面から見た国際機関 専
- 開発ミクロ経済学 専
- 比較福祉政治 専
- 現代社会論 専
- 進路　海外大学院
- 卒論演習
- 卒論テーマ ～先住民の権利保護と持続可能な開発～

IR Model 2　南アジア地域 × 国際政治「外交官として日本と外国を繋ぐ架け橋になりたい！」

- 専攻言語Ⅰ（ヒンディー語Ⅰ）
- GLIP 英語
- ショートビジット ザバーン・ランゲージ・インスティテュート（印）
- 南アジア研究入門１ 基
- 南アジア研究入門２ 基
- パキスタン研究入門１ 基
- 国際政治学入門 入
- 世界史を開く 入
- 国際政治経済入門 入
- 基礎リテラシー・基礎演習
- 教養科目
- 国連スタディーツアー

- 専攻言語Ⅱ（ヒンディー語Ⅱ）
- GLIP 英語
- パキスタン・アフガニスタン研究入門 基
- ナショナリズムとイスラーム主義 専
- 政治学原論 入
- 国際安全保障論 専
- 政治分析入門 入
- 国際政治理論 専
- 外交官等国家・地方公務員プログラム
- 教養科目

- 専攻言語Ⅲ（ヒンディー語Ⅲ）
- パキスタン・アフガニスタン 近現代政治社会史１・２ 専 専
- 国際法概論Ⅰ 専
- 日本外交論 専
- 地域主義比較分析 専
- 国際法Ⅰ・Ⅱ 専 専
- 専門演習
- 「国際協調」

- 教養外国語（アラビア語）
- インド・パーキスターン分離独立論１・２ 専 専
- アラブ地域政治事情 専
- 紛争解決論 専
- 西欧現代政治論 専
- イギリス政治外交史 専
- 進路　外務省専門職
- 卒論演習
- 卒論テーマ ～インド太平洋をめぐる国際政治～

IR Model 3　東南アジア第２域 × 経済「グローバル・バリューチェーンの課題について考えたい！」

- 専攻言語Ⅰ（タイ語Ⅰ）
- GLIP 英語
- タイ研究入門１・２ 基 基
- 東南アジア研究入門 基
- ミクロ経済学入門 入
- 地域研究入門 入
- マクロ経済学入門 入
- 基礎リテラシー・基礎演習
- 教養科目

- 専攻言語Ⅱ（タイ語Ⅱ）
- 教養外国語（中国語）
- 地域社会と経済生活 専
- 現代東南アジア経済論 専
- 国際政治経済入門 入
- ジェンダー論入門 入
- 貿易と直接投資 専
- 計量経済学入門 専
- 国際金融概論 専
- 教養科目

- 専攻言語Ⅲ（タイ語Ⅲ）教養外国語（中国語）
- 東南アジア地域研究特論 専
- タイ政治経済論 専
- 留学 チュラーロンコーン大学（泰）
- クィア・スタディーズ 専
- 開発マクロ経済学 専
- 国際経済学１ 専
- ビジネス法 専
- ラテン・アメリカの経済発展と開発経済学 専
- 専門演習
- 「国際経済論」

- 教養外国語（朝鮮語）
- 現代中国経済論１・２ 専 専
- 国際経済学２ 専
- 東アジアの経済発展と開発経済学 専
- 開発経済学と東南アジア地域研究 専
- 進路　政策金融機関
- 卒論演習
- 卒論テーマ ～アジア経済とバリュー・チェーン～

4. 学内活動紹介

大学には授業以外にもサークル活動などさまざまな課外活動の場があります。6 ページで紹介した VOLAS の活動もそのひとつです。ここでは学内行事や大学の企画など、大学と連携した活動に参加している先輩方の声を紹介します。皆さんも興味のある課外活動に積極的に参加してみてください。

高木 紀実 さん
東南アジア／タイ語
国際関係コース
内山ゼミ・3 年生

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

私は第 97 回～第 99 回外語祭実行委員会に所属していました。簡単ではありますが、外語祭実行委員会について紹介させていただきます。外語祭実行委員会は通称「外実」と呼ばれ、企画・準備・運営・片付けなど、日本 No. 1 の学祭に選ばれたことがある外大の伝統的な行事『外語祭』を支え、創り上げる団体です。7 つの局に分かれ、さまざまな業務を分担して行います。私は「企画局」に所属し、実行委員会企画の準備･運営を主に行っていました。他にも、外語祭の広報を担当する局、料理店・語劇の運営を支える局などがあり、自分のやりたいことと局との相性によって所属が決まります。外語祭の開催・成功という大きな目標向かって全員で試行錯誤しながら全力で活動しています。

今年度、外語祭は第 100 回を迎える節目の年です。語科、サークル・部活、ゼミなど様々な形で外語祭に関わる機会があると思います。今年も素敵なお祭りになるよう、ぜひ皆さんで大いに盛り上げてください。そして、外語祭や外実に少しでも興味を持ってもらえているなら、外実に入って外語祭を支え、創り上げてみませんか。より濃く外語祭の魅力を感じることができると思います！

第 99 回外語祭の準備風景（筆者左）

金澤 鼓 さん
中央ヨーロッパ／チェコ語
現代世界論コース所属予定
2 年生

外語祭でのビルマ語科民族衣装体験で、
学生取材班の友人と（筆者左）

ご入学おめでとうございます！大学では講義や部活・サークル活動以外にも、新しいことに挑戦できる機会が多くあります。私は、昨年度、大学広報学生取材班に所属し、留学生を含め外大生に、ふるさとの思い出や母国の民族衣装を紹介してもらうという企画に携わりました。インタビュアー・ライターの仕事は初めてでしたので、常に試行錯誤の連続でした。例えば、記事執筆の際には、読者に興味をもってもらうためにはどうすればよいのか、読者の視点に立って記事の構成を考える難しさを痛感しました。ただ、その分、学生取材班での活動は非常にやりがいのある楽しいものでした。特に、インタビューを通して、その人しか語ることができないストーリーを直に聞くことができるという点に心惹かれました。学生が主体となり、企画立案から記事完成まで一連の過程を創っていくというのは、とても貴重な経験でした。大学生活を送る中で、皆さんには、学生取材班に限らず、様々なチャンスを自ら掴んでいくという姿勢をぜひ大事にしてほしいと思います。

張 瀛 さん
東南アジア／ラオス語
地域社会研究コース
菊池ゼミ・3 年生

みなさん、ご入学おめでとうございます！
私は、同じ国際社会学部ラオス語科の仲間と、「TUFS 多文化共生自主企画」に参加して、ラオス料理スタンプラリーを企画しました。きっかけは、9 か月前。TUFS 多文化共生自主企画の公募を見たメンバー同士が誘い合い、「コロナの影響を受けた飲食店を救えないか？」「ラオスについてみんなに知ってほしい！」そんな思いから、ラオス料理スタンプラリーが実現しました。都内のラオス料理店を回ってスタンプを集め、すべて達成すると景品がもらえるというもので、最終的には 21 名の方がスタンプラリーを達成してくれました。また同時にオンラインイベントも開催し、ラオス料理を生配信で作ったり、ラオス語クイズをして、「ラオスについて初めて知った」「楽しかった」といった声を多く頂きました。活動を終えた今、大学生活で 学んだことを学外で生かす良い経験になったと感じています。大学生活は、勉強だけでなくサークルやバイト、ボランティアやインターン、留学など、本当に何でも自由に挑戦できる貴重な時間です。私たちからは、新入生の皆さんには、学内外問わず興味を持ったらとりあえず挑戦してみることをお勧めします。そうして、皆さんが充実した外大ライフを送れることを願っています。

企画したオンラインイベントにて、ラオス料理を生配信で作っている様子（筆者左）

TUFS 多文化共生学生自主企画：2019-21 年度に開催された大学の公募事業。異なる言語や文化の相互理解を深めるために、学生が自主的に企画した国内外の機関と連携して行う取組を大学が支援しました。

Welcome Messages

田邊 佳美 先生
現代世界論コース

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
個人的な話で恐縮ですが、私は皆さんより 20 年ほど昔に、東京の古く窮屈な女子校で育ちました。思春期になるとピアス穴チェックで耳を引っ張られ、昼食を買いにパン屋にいけば反省文を書かされ、帰りの電車では痴漢に遭う、そんな不条理な世界でした。社会には規則があり、それを学ぶ練習だと学校で言い聞かされ絶望しましたが、大学に入りそれは一つの「物語」に過ぎなかったと知りました。とりわけ社会学に出会い、社会規範や社会構造、ジェンダーや表象などの概念が私の個人体験を説明すると分かった時には、何とも自由な気分になりました。その力に惹かれ、社会学のレンズを通してもっと色々な世界を見てみたいと研究の道に進みました。社会学に限らず学問には、社会の「常識」や「偏見」から自分自身や他者を 自由にする力があります。それは、支配的な「物語」とは別の角度や色合いで現実を見つめる道具となるからです。皆さんには、学問とその他の様々な活動を行き来する中で、手に入る様々なレンズを通して、改めて自分や他者そして社会と出会い、世界を見渡してみてほしい、また私自身も皆さんと一緒にまだまだ知らない世界を見てみたいと思っています。
どうぞよろしくお願いします。

調査地フランスで、国際女性の権利の日のデモに参加したときの様子（筆者右）

5. 学生によるゼミ案内

～うちのゼミ紹介します！～

国際社会学部では、3 年生からゼミを履修します。（注：指導教員が開講する専門演習が「本ゼミ」です。普段は「ゼミ」と呼びます）教員の指導を受け、ゼミ仲間との議論を経ながら自分の研究を磨き、最後に卒業論文としてまとめることになります。

…といっても、ゼミの具体的なイメージがなかなか湧かない、という学生も多いのではないでしょうか。そこで、既にゼミを経験した皆さんの先輩の声の一部を、ここに紹介します。ゼミ生の声から、ゼミの雰囲気を感じてみてください。

（地域社会研究コース　青木雅浩ゼミ）

―なぜ論文を書くか。この問いが青木ゼミの出発点です。卒業論文を執筆する理由やその問題設定、実証研究の方法などについて、先生からのヒントをもとに意見を出し合いながら答えを探っていきます。その後個々人で卒業論文のテーマを設定し、関連するディシプリンや先行研究の傾向、具体的な研究方法などについて発表を通して検討を重ねます。

少人数 (2020 年度は 10 名以下) のゼミなので、和気藹々としており発言もしやすい環境です！発表に対する質問や意見交換も忌憚なく行われており、その度に刺激を受け新たな発見があります。個人プレーで卒業論文を執筆するというより、先生からのご指摘を踏まえつつゼミ生同士で知恵を寄せ合い、互いの論文の質を磨き上げるべく協同する文化が青木ゼミには根ざしていると思います。青木先生ご自身のモンゴルでの体験談や、研究者としてのキャリアのお話を伺うことができるのも青木ゼミの醍醐味の一つですよ！（石橋実和子）

（地域社会研究コース　青山弘之ゼミ）

青山ゼミは、近現代の中東事情に関して、書籍の輪読、発表者による研究発表と、それを踏まえた討論という形式で行われています。政治、社会から文化まで、中東に関することなら何でも研究テーマにして OK という、間口の広さが売りです。それだけではありません。青山先生による発表のフィードバックやゼミテン（ゼミ所属者のことを指します）との議論を通じて、論理的な思考力や論述力、適切な研究手法の選定など、地域研究及びアカデミアにおいて必要不可欠な基礎をしっかり身につけることができます。自分自身、課題と結論の整合性や各節の論理関係を意識して言葉を紡ぐことができるようになり、成長を実感しています。自身の抱く強烈な「興味」を、冷静で論理的な「学術論文」へと昇華させることができるのが、このゼミのもう一つの売りなのです。

中東に興味があって、純粋な知的好奇心をお持ちのそこのあなた！既に門戸は開かれています。（萩原優太）

（地域社会研究コース　大石高典ゼミ）

大石ゼミは、自分が生活の中で体験したことを通して考えるゼミです。例えばご飯を食べながら、友達と会話しながら、アルバイトをしながら、フィールドワークの手法を用いて人間の「生のかたち」を見ていくことが大きなテーマとなっています。専攻地域や研究テーマに指定はないため、ゼミ生の扱うテーマは自由でとても個性豊かです。

3 年ゼミでは春学期に「フィールドワークへの挑戦」「調査されるという迷惑」の 2 冊の本を輪読し（読む本は毎年話し合って決めています）、秋学期には各自の扱いたいテーマについての個人発表を行いました。発表のテーマは食や宗教、音楽に関するものなど多様で、授業の度に新たな発見ができるような環境です。毎回行っているディスカッションにも大きな魅力があり、ゼミ仲間の言葉で新たな気づきを得ながら、時には方向転換をしながらも自分の研究を深めていくことができます。

大石ゼミには“おいしい”（OISHI）ゼミと銘打ったホームページがあり、ゼミ生のエッセイやおすすめ本などの記事も掲載されています。ゼミの雰囲気がわかりやすいと思うので、ご興味があればぜひ覗いてみてください。（玉井遥）

（地域社会研究コース　大石高典ゼミ）

大石ゼミのキーワードは「フィールドワーク」です。フィールドワークを通じて〈他者〉と出会い、理解し、時には自分自身のことも振り返ってみたりしながら、人間の生のあり方について考えます。したがって、研究テーマはゼミ生の興味・関心の数だけあるという、かなり自由度の高いゼミとなっています。

三年生の春学期には、みんなで本を一冊選んでそれを輪読します。秋学期には、各自が関心を持つ研究テーマや方向性について発表します。「ミャンマーのお弁当事情」「先住民とアルコール・ドラッグ」など個性豊かなテーマが飛び出してくるので、毎週が「おもしろい！」との出会いです。時には研究が停滞したり、関心が移り変わることもありますが、「まあそういうもんだよね」というのが大石ゼミのスタンスです。とにかくやってみること。頭だけでなく、身体や五感を使って学問をする。それができるのが大石ゼミの特徴であり、魅力でもあると思います。（田津真里恵）

（地域社会研究コース　大鳥由香子ゼミ）

現代のアメリカは、BLM 運動を典型として、さまざまな場面で過去と向き合わざるを得ない状況にいます。そして、私たち自身も、その理由を知るためには、南北戦争や奴隷制といった過去にまでさかのぼる必要があります。つまり、現代のアメリカを理解する上で、その過去に視線を向けることは必要不可欠です。

大鳥ゼミでは、現代のアメリカがどのようにして今日のような姿になってきたのか、文献や史料を通して学びます。特徴は、ゼミ生全員が文献を読んだ上でディスカッションを行うことです。そして、スペイン語科や朝鮮語科など、英語科以外の生徒も参加しており、その関心は外交から経済、音楽、奴隷制まで多岐にわたります。

“All men are created equal” を基軸に建国され、「自由」「平等」「民主主義」の国として知られるアメリカ。しかし、今日では多くの隘路に陥り、その根幹は揺るがされています。その歴史的変遷を、大鳥先生の元で一緒に考えてみませんか？（領家歩希）

（地域社会研究コース　小田原琳ゼミ）

このゼミでは、近現代イタリアについて学ぶことを通して、ある特定の地域を、歴史や文化を含む全体として理解し、その課題を知っていきます。イタリアのみを見つめるのではなく、時間的にも空間的にも広い視野をもつことが求められます。そして、これは、自分自身が生きている社会を問い直すことへとつながります。

具体的には、文献の講読や書評論文の執筆をします。学生が分担して発表し、議論を深めていきます。ただ単に文献を正確に読むのではなく、そこから自分の考えたことを言葉にしてあらわし、先生や他の学生と共有することが重要になります。このような活動を通して、それぞれの学生の興味関心や問題意識にもとづいて卒業論文のテーマを決めます。「学ぶ」ということを通して、自分自身と向き合うことができるゼミです。（小林史緒）

（地域社会研究コース　菊池陽子ゼミ）

私たちのゼミでは、東南アジアに関して幅広い事柄を扱っています。扱う内容は先生の専門領域である東南アジア近現代史だけでなく、学生の関心に応じても決められます。そのため、開発、経済、教育、文化など一人一人が興味ある分野を掘り下げて学ぶことができる点が大きな特徴です。今年度の春学期は東南アジア各国の政治と軍の関係について扱ったあと、それと比較する形でミャンマー情勢とその歴史的背景という、現在の情勢に応じた内容に取り組みました。秋学期では植民地期のカンボジアの新聞である「ナガラワッタ」を扱い、ナショナリズムや植民地の状況についての理解を深めました。様々な関心を持った個性的な学生が集まっていますが、互いを尊重し合う穏やかな雰囲気でアットホーム感があるゼミです。（矢野みなみ、泉俊作）

（地域社会研究コース　木村暁ゼミ）
中央アジアやその周辺地域を対象として、歴史的・現代的諸問題の研究を行うゼミです。対象地域の諸言語で書かれた史資料や文献の講読と議論、自身の卒論に関連した発表を行います。講読では、ゼミ生で協力し訳文・訳注を作成するだけではなく、それを題材にして、書き手の意図や書かれた事象をめぐる背景、そこには書かれなかった事柄についても考察します。そして各自の意見を交換し議論します。発表に関しては、卒論を見据えた先行研究の論評や構想発表を行います。専攻言語や地域、研究関心が多様なゼミ生との情報交換や先生からの丁寧なフィードバックのお陰で、自身の研究を深めていくことができます。地域の諸言語を使い、歴史的な問題あるいは歴史的視座をふまえ現代の問題に向き合うことは難しくもありますが、ゼミ生や先生との双方向の学びを通し、一層その面白さに惹かれていくように思います。ゼミは温かい雰囲気です。皆さんを心待ちにしています。（鍜治屋沙月）

（地域社会研究コース　久米順子ゼミ）
久米ゼミは美術史・文化史を中心に扱うゼミです。先生のご専門はイベリア半島の中世美術史ですが、西南ヨーロッパ以外にも、ラテンアメリカや中央ヨーロッパ、北アメリカ、東南アジアなど様々な地域を専攻する学生が集まっています。
　ゼミでは各自興味のあるテーマについて持ち回りで発表します。質問や意見交換の中で課題が見つかることも多く、実りの多い時間です。ゼミ生の関心が多岐に渡っていることもあり、新しい分野に触れることができるのもこのゼミの魅力だと思います。
自由度が高いからこそ計画的に研究を進める工夫は必要となりますが、先生も学生の関心に寄り添って優しくサポートしてくださいますし、発表や卒論の読み合わせを通してゼミ生同士刺激を受け合います。美術はもちろん、音楽や映画、食文化など幅広いテーマの中から、自分の興味を深く探求する素晴らしい経験になると思います。（アドラー陽子）

（地域社会研究コース　倉田明子ゼミ）
倉田ゼミは地域研究コースで「中国近代史、香港・南中国地域史」の分野になります。が！！！歴史は地域史、社会史、文化史など範囲が広く、ゼミ生は各々の興味関心に忠実なテーマ設定をし、卒論を執筆していくのでテーマが多種多様になります。そのため、ゼミでテーマ発表や進捗報告をすると自分とは異なる視点からの意見やアドバイスを得ることができ、問題点の解決や方向性の修正を行うことができます。また倉田先生はご自身に馴染みのないテーマでも調査・執筆方法、修正点など的確なご指導くださるので、「興味のあるテーマ設定をしたいけど書き上げられるか」という不安があっても大丈夫です。かくいう私もその１人であり、先生にとって馴染みのない文化コンテンツの一種をテーマに取り上げましたが、結果我が子のように大切な思いの詰まった卒業論文を書き上げることができました。なので該当地域に興味があり、優しい倉田先生、優しいゼミ生の中で卒論を立派に育て上げたい人には大変オススメのゼミです！（中平青知杏）

（地域社会研究コース　巽由樹子ゼミ）
私たちの巽ゼミではロシア史、特に近代ロシアにおけるメディア史を扱っています…とはゼミ案内に記載の通りですがこれだけだとなんだかよく分かりませんよね。当ゼミは基本的に誰でもウェルカム！研究テーマも歴史やメディアに限定する必要はありません！現に３年次の自由発表ではアイドルやスポーツ、小説など多様なテーマで発表がされました。もちろんメディア関連をやった人もいますよ。何を研究したいかまだ探している途中の人にもオススメだと思います。
印象に残った授業は、ソ連時代の雑誌を１冊選び書誌情報や内容をまとめて発表するというもの。レポートのために本や論文を探すことはありますが１冊の雑誌に対して出版社や雑誌の特徴、歴史や購買層を調べるというのは未体験の刺激でした。本物の雑誌を手に取れるのも感慨深い！歴史とソ連を感じました。
巽先生も非常に優しく和やかな雰囲気です。ゼミ選択の際はぜひご検討ください！（宮原凜）

（地域社会研究コース　千葉敏之ゼミ）
千葉ゼミを一言で表現するならば、「狭き門より入れ」と私は言うでしょう。この西欧中世史ゼミで学び、その集大成として卒論を書き上げることは、歴史に少々詳しくなるということ以上のものを意味します。まずもって、知的な胆力と足腰が鍛えられます。千葉ゼミの門を叩くということは、大量の欧文文献（恐らく多くの学生にとって未経験ではないかという量）と格闘する生活を始めるということです。悪戦苦闘しながら一つ一つ読んでいくその経験は、気概を養うと同時に、欧文のリテラシーを学術的な水準において確実に高めてくれます。欧州のアイデンティティを醸成した、中世という約千年間を対象に学ぶことは、今の世界を深層から理解する視座を養うことにも繋がります。その深遠さに圧倒され戸惑う私たち学生はきっと、迷える子羊も同然ですが、千葉先生は彼らを導くいわば羊飼いです。ゼミ活動の濃密な時間の中で、歴史家の思考法に触れることができるはずです。自身をさらに高めたいと願う学生には、是非とも「狭き門より入れ」と勧めたいと思います。（今西在知）

（地域社会研究コース　藤井豪ゼミ）
藤井豪先生のゼミは韓国現代史を中心とした歴史学ゼミです。歴史学というと、高校時代の暗記科目の歴史を思い浮かべるかもしれませんが、そんな固定概念を覆し、歴史との向き合い方、歴史の一部である私たちが生きる世界の見方など、幅広く学ぶことができます。 学生の関心分野を尊重してくださり、歴史学を基盤としたさまざまな角度からのアプローチで理解を深めていくことができます。ご専門は朝鮮解放後八年に焦点を当てた政治思想史です。ジェンダーや人権問題など、現代の社会問題についても学ぶことができます。 京都大学で学士、大阪大学大学院で修士修了後、韓国現代史研究の第一人者である徐仲錫氏の弟子として研究し、成均館大学大学院で博士号を取得されています。20 年間韓国で研究、活動されていた経歴のため、韓国の実情に詳しく、様々な知見を共有してくださいます。韓国・朝鮮半島を研究したい学生に最適です。後輩のみなさんをお待ちしています！（田中千尋）

（地域社会研究コース　舛方周一郎ゼミ）
舛方ゼミの特徴は自身の興味がある研究テーマをバックグラウンドが異なる仲間とのディスカッションを通じて突き詰められるところです。当ゼミは「ブラジル（ラテンアメリカ）を起点とした比較地域研究」を掲げていますが、扱うテーマは多岐に渡ります。例えば 3 期生はジェンダー・スポーツ・比較政治・公衆衛生に興味があり、毎週扱う内容が異なりました。ゼミにはポルトガル、スペイン、チェコ、ヒンディー、ウルドゥー語科の学生がいます。当ゼミ生は学んできたことや関心が多様です。そのためディスカッションを通じて自分だけでは気づけなかった思わぬ視座を得ることができる外大の中でもユニークなゼミです。普段のゼミの様子をホームページ masukata-seminar.org で公開しています。昨年は食事会を開催するなどとても雰囲気のいいゼミです。ご興味を持たれた方は是非見学にいらしてください。後輩の皆さんを心よりお待ちしています！（遠藤大輔）

（地域社会研究コース　宮田敏之ゼミ）
タイ語専攻の学生に限らず、東南アジアの幅広い言語を専攻する学生が集い、和気あいあいとした雰囲気の中で意見を交わし合うことができます。特に、東南アジア地域は国や地域によって宗教や生活様式などその文化は多種多様であり、言語もしかり、独自の発展を遂げていることが特徴です。社会情勢も全く異なるため、ゼミでの情報交換は常に刺激的で新鮮でした。それぞれ興味の対象が異なるなかでも、調査や分析の手法について分野横断的に宮田先生にご教授いただけたので、皆が自らの知識や経験の集大成として、自らの言葉で論文を仕上げることができたと思います。主専攻での学びを経て、ゼミという場で改めて主専攻ではない国や地域の話題に触れることで、多角的な視点を得ることができ、より広い視点で研究内容を捉え直しながら学びを深められたことは、大変有意義でした。（佐々木優衣）

（地域社会研究コース　宮田敏之ゼミ）
宮田ゼミでは主に東南アジア経済について学びます。しかし一口に経済と言っても、理論や数式を学ぶわけではなく、東南アジアの歴史、政治、文化、社会情勢など、様々な切り口から経済動向を捉え議論を深めます。したがって、経済を一つの軸としつつも、ゼミ生の関心がある分野は多種多様です。私はタイのスマートシティ政策を卒業論文のテーマに掲げていましたが、ある人はタイの現代美術と企業メセナ（企業が芸術・文化活動を支援すること）の関係、ある人はインドネシア人の訪日観光をテーマとしていました。そのため、ゼミ生同士で互いのテーマについて議論を進めると、いつも新鮮な発見があり、自身のテーマについても形式や枠に捉われない研究を進めることができます。地域研究として、自身の関心のある地域について分野を問わず理解を深めたい人は、ぜひ宮田ゼミで一緒に勉強しましょう。（菊池峻汰）

（現代世界論コース　小野寺拓也ゼミ）
小野寺ゼミの特徴を簡潔に表現すると、「コツコツ、綿密、静かな情熱」の三点だと思います。三年次は前半に先生の専門である近現代ドイツ史・ナチズム関連の文献講読を通じて、専門的な資料を深く読む練習を行い、後半には卒論執筆の予行練習として 8,000 字程度の小論文に取り組みます。初めての論文執筆はちょっとヘビーだけれど、問いの見つけ方や論文のアウトライン構成・執筆スケジュールの立て方など、論文執筆のプロセスを一から学べます。そして四年次には卒論本番！前年の“練習”を糧にして、一つのテーマにじっくり向き合います。
論文執筆では、書くことそのものと同じくらい、書くための「事実集め」に根気と時間が必要でした。特に小野寺ゼミの主軸となる歴史学では、事実の長い積み重ねを読み解く力が求められるため、文献チェックに骨が折れる日もありますが、玉石混交の情報が溢れる現代を生きる中でも不可欠な、正しい事実を見極める力がつくはずです。（大橋彩乃）

（現代世界論コース　田邊佳美ゼミ）
3 年ゼミでは、指定された文献を各自事前に講読し、要約とコメントをまとめておきます。当日は担当者による発表とディスカッションを行います。文献は、ゼミ生の関心に応じて先生が選んでくださいます (例：人種 / エスニシティ・ジェンダー・セクシュアリティ・階級など)。この輪読を通して文献を能動的・批判的に読む能力を身につけ、そこで得た知見を自分の問題関心と関連付けて考えを深める能力を養います。秋学期には、4 年の卒業論文執筆に向けた研究計画を作成します。
輪読では議論が中心になります。そんなに堅苦しいものではなく、皆で和気あいあいと文献の感想や意見、疑問点について話し合っています。ゼミ生の問題関心も多様で、毎回の議論を通して新たな発見があります。また、先生も親身になって話を聞いてくださいますし、文献を踏まえて様々な視点からの捉え方をお話ししてくださるので視野が広がります。
社会学的・国際社会学的な視点を伴う問題関心がある方、穏やかな雰囲気の中で自分の考えを深めたいという方にはおすすめです！（阿南和香）

（現代世界論コース　中山智香子ゼミ）
本ゼミは伝統ある現代世界論コースの先鋒として、複雑怪奇な世界の探求に挑戦するすべての者に開かれている。本ゼミが求めるのは、自文化の規範と価値観を批判的に捉え、自らのセンスで問題群を発見し、先人の思想と理論を柔軟に吸収しながら問題解決のために思考し、行動できる人間への成長を望む者である。無論だが、ここでは堕落へと至るだけのつまらない馴れ合いは許されない。おのれの魂と実存の徹底的な開示が要求される。これまで太鼓持ちのような「優等生」を続けてきた者には厳しい環境かもしれない。しかし、いきなり言説の戦場へと投げ出されるわけではないから安心されたい。春学期には、教員の手ほどきの下、基本文献の輪読によって思想的な基盤を獲得することが目指される。秋学期には、ゼミ論を執筆することで、自ら思考し、自ら書くという知的な批判力・構想力の涵養に着手する。お仕着せの「お勉強」には充足できない者を私たちは待っている。（長谷川健司）

（現代世界論コース　真島一郎ゼミ）
専攻地域も研究テーマも互いに異なった、じつに多彩な学生が集まるゼミです。卒論の前に、3 年次でゼミ論を執筆します。人との繋がりのなかで、でも自力で、論文執筆に本気でチャレンジできる環境です。ゼミ友同士、知識や思考を持ち寄って関わることで、視野を広げつつ自分の問いの本質を探ることができます。
ゼミ選択の時点で、自分のテーマは未定でも OK。こちら自由に設定できますが、ゼミ全体では、「自分がいま世界のどこに立っているのか」を念頭に置いて、各自の問いをたえず開いていくことが大切にされます。
普段はローテーションで論文の構想を発表し、みんなで発表者の相談に乗ったり、議論を行ったりします。真島先生からは、考えるヒントをいただけます。各学生にぴったりの本をよく紹介してくださいますが、この本との出会いが針路をしめすこともあります。仲間と刺激しあいながら、自分の問いにじっくり向き合いたい人におすすめのゼミです！（長谷川真子）

（国際関係コース　鈴木美弥子ゼミ）
1、2 年生の時、鈴木美弥子先生の法学の講義を履修していた方は、少なくないと思います。この場をお借りして、みなさんに大教室での授業では伝わりきらない先生の素晴らしさとゼミの特徴を紹介します！
第一に、先生は、ユーモア溢れる方で、学生を褒めて伸ばしてくださいます。学生の成長を評価したアドバイスをくださるので、前向きな気持ちでゼミの時間を過ごせます。民法ゼミはいつも笑いに包まれています。第二に、法学というと固そうで退屈に聞こえますが、ゼミでは自身の興味に応じて学びを深めることができます。また、日々の生活で法律が関わらないことはなく、卒業論文は幅広いテーマから選択することができます。 最後に、ゼミには公務員を目指す学生が多数所属しています。民間を含めて、その就職実績も良好です。個人的には、大学の専攻が言語と民法と言えるところが、就職の面接時に有利に働きました。法律に少しでも興味のある方、褒められて成長したい方は、是非、鈴木美弥子ゼミへの入ゼミをご検討ください！（遠藤紗加）

（国際関係コース　中山裕美ゼミ）
中山ゼミでは、安全保障や外交、移民などのグローバル・イシューに、国際関係論の理論を用いながらその原因や解決策について考察できる能力を養うことを１つの目的としています。３年次は主に文献講読とディスカッションを通じて、国際関係論の基礎知識は勿論、卒業論文を執筆する際のテーマの土台を築いていきます。
そして、中山ゼミの最大の特徴でもありますが、卒業論文の執筆は他のゼミよりも多くの時間をかけて行います。４年生になる前から執筆を開始し、先生に何度も添削を依頼しながら論文を完成させていきます。添削していただいた文章が赤文字で埋め尽くされていた時や、仮説を立証できそうになく、執筆の途中で軌道修正せざるを得ない時は、精神的にしんどく感じることもあります。しかし、論文を完成させるために闘う学生を、先生は全力でサポートしてくださいます。挑戦してみたい後輩の皆さん、ぜひ中山ゼミで全力の学びを楽しんでください。（坂口雅哉）

＊サブゼミとは？

本学では、指導教員とは別の教員が担当するゼミを履修することも可能です。このことを、通称「サブゼミ」と呼んでいます。皆さんの先輩の実体験から、サブゼミの利用法を見てみましょう（なお、全てのゼミがサブゼミを開講しているわけではありません。サブゼミを履修する際には、必ずその担当教員と事前に相談しましょう）。

私は、中央ヨーロッパの近現代史がご専門の篠原先生のゼミに所属する傍ら、国際関係論がご専門の舛方先生のゼミに参加していました。地域社会研究コースでは対象地域と各自の学術的関心に沿ってゼミを選択することが一般的に求められますが、私は自身の興味分野が絞り切れていなかったため、学びの範囲を広く保ちたいと考え、サブゼミを受講しました。本ゼミでは自身の関心分野の一つであった集合的記憶についての知見を深めることができた一方、サブゼミではラテンアメリカや南アジアなど多様な経歴を持つゼミ生の同期たちと共に、比較政治・ジェンダー・健康・スポーツなど幅広い切り口から現代世界を見つめ直す機会を得られ、二つのゼミを通じて自身の興味関心を十二分に探求することができました。現在は、集団と健康というテーマに関心をもっていますが、これは双方のゼミでの学びを通じて得たものになります。サブゼミ受講では予習や発表で求められる労力は大きくなりますが、その分自身の関心と向き合う上では最適な環境を享受できます。自身の関心のある分野がまだわからないと感じる方は、サブゼミを通じて幅広い学域からの刺激を受けることも選択肢に入れてみてはいかがでしょうか。（下田紗英）

私は、本ゼミとして上原こずえ先生の社会学演習、サブゼミとして大川正彦先生の政治理論演習を履修しました。私はフィリピンと日本における社会運動と政治に興味があったので、上原先生のゼミに所属することを決めましたが、政治思想などにも興味があったので、大川先生にメールで相談し、政治理論演習をサブゼミとして履修することを決めました。サブゼミを履修して良かったことは、本ゼミでは具体的な事例を扱った文献を読むことが多かったのに対して、サブゼミではより哲学的なテーマに沿った文献を読むことが多く、それぞれのゼミの良さを吸収しながら、上手く学ぶことができたことです。大変だったことは、どちらも毎週の講読文献があったので、毎回の授業の準備が忙しかったことです。ゼミでは他の専門科目の授業とは違って、演習のテーマをより深く学ぶことになります。サブゼミを履修するのは大変ですが、その分普段の授業では聞けない話も沢山聞くことができます。（劔持彩人）

私は丹羽泉先生の宗教社会学ゼミに所属しながら、木村暁先生の中央アジア地域研究ゼミにサブゼミとして参加していました。ゼミ選択時点で、既に研究テーマを「中央アジアの宗教とテロリズム」と決めていたので、三年次の春からサブゼミに参加しました。二つのゼミでは、宗教社会学的なアプローチを丹羽ゼミで、中央アジアの政治・経済、歴史などの地域研究的なアプローチを木村ゼミで学び、それらを相互的に絡めて研究したことで、自身の研究テーマを立体的にとらえることができました。また、サブゼミでは、研究地域であるカザフスタンの周辺国を研究する学生からの、比較的観点でのフィードバックをもらえたことも大きな利点でした。同じテーマを取り扱っても、二つのゼミで違う観点から意見をもらえたことは非常に良かったです。もしゼミに迷っているなら、一度先生に相談をしてみるのが良いと思います。
(石井伶海)

私が久米先生のゼミを主ゼミとして、岡田先生のゼミをサブゼミとして選択したのは、自分の進路選択をする上で、アート関係か、教育や国際協力関連に進もうか、迷っていたからです。私の選んだ２つのゼミはコースが異なり関連性も低いのですが、両方受けたことに非常に満足しています。
私はゼミ選択後も自分のキャリアや卒論の方向性についてずっと悩んでいましたが、実際に両方のゼミを受け、ゼミのメンバーと関わり、論文を書く勉強をしつつ、課外活動や仕事経験を経ていくうちに、将来自分のやりたいことが見えてきました。その時間を与えてくださったフレキシブルな２人のゼミの先生に非常に感謝しています。ゼミは自分の興味を深掘りし、先生やメンバーと関わりキャリアを考える機会になります。サブゼミを活用すればその機会が２倍になります。とても良い制度だと思いますので是非気軽に活用することをおすすめします！（杉田美夢）

私は、東南アジア経済論ゼミ（本ゼミ）と東南アジア島嶼部歴史社会論ゼミ（サブゼミ）との２つのゼミに所属していました。東南アジアについて満遍なく学び、また２つのゼミで幅広い問いに触れる中で、知的好奇心を満たしつつ真に関心のある研究対象を見つけたかったからです。私は最終的に、「企業」という存在に興味を持ち東南アジアの財閥同士の資本提携についての卒業論文を執筆しました。経済系のテーマではありますが、そもそも「企業」に興味を持ったのは、本ゼミの影響は勿論、サブゼミで「国家」や「民族」といった切り口で世の中を分析する仲間に刺激を受け、自分は「企業」という切り口で世の中を分析したいと思ったことや、サブゼミの先生に勧められた書籍に刺激を受けたことも大きな要因でした。もし興味関心の対象をまだ絞れない方は、サブゼミを履修することで存分に知的好奇心を追求した上で研究テーマを選んでも良いのではないでしょうか。（上月健）

Welcome Messages

青木 雅浩 先生
地域社会研究コース
（ゼミ担当学部長補佐）

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。
私は、国際社会学部でゼミ関連の業務を担当しています。みなさんは、２年次でゼミ・コースを選び、３年次以降、選択したゼミ・コースに所属して卒業研究を行うことになります。ゼミは、「この問題は、なんでこうなっているんだろう？」というみなさん自身の探求心から出発し、それを研究へと具体化していく場です。ゼミでの学びは、みなさん個々人の主体性に基づくものではありますが、１人きりで行うものでは決してありません。研究の同志であるゼミの仲間たちとの交流や、世界各地域の専門家である教員の指導によって自分の研究を磨いていくことになります。大学の学びの中心にあるゼミでの経験は、本学卒業後にみなさんが社会で活躍する際に大いに役立つものです。
２年次のゼミ・コース選択、３年次以降のゼミの活動に関するみなさんの相談に応じ、みなさんの学びのお手伝いをするのが、私の役目です。
ゼミは、高校までの勉強にはなかった学びなので、戸惑うことが多いと思います。ゼミについてわからないことがあったら、下記のメールアドレス宛に質問を送ってみてください。
ゼミ・コース関係質問用アドレス ↓
ks_course_sentaku@tufs.ac.jp

6. 学部賞受賞者紹介

国際社会学部では、指導教員から推薦があったすぐれた卒業論文に対して国際社会学部賞が授与されます。2021 年度の受賞者と論文タイトルを紹介します。本学の学生は、受賞論文および紹介動画（本人の承諾があったもののみ）を Moodle 上で閲覧できます。また、過去の先輩たちの卒業論文タイトルは学部ホームページで見ることができます。

■ 地域社会研究コース

内山歩美（うちやま　あゆみ）（ラテンアメリカ地域／スペイン語／舛方周一郎ゼミ）
「反フェミサイドの犯罪化：メキシコの一般法・連邦刑法を事例に」
鍜治屋沙月（かじや さつき）（中央アジア地域／ロシア語／木村暁ゼミ）
「カザフスタン共和国アルマトゥ市における電子政府ポータルの利用意図の要因分析」
川﨑美穂（かわさき みほ）（中央ヨーロッパ地域／ポーランド語／篠原琢ゼミ）
「ポーランドにおけるミュージアムと歴史認識：ドルヌィ・シロンスクを事例に」
齋藤優梨乃（さいとう ゆりの）（西南ヨーロッパ地域／イタリア語／久米順子ゼミ）
「字幕における言語文化的情報の翻訳：イタリア映画 “Scusate se esisto！” の日本語字幕を分析する」
佐藤直哉（さとう なおや）（中央アジア地域／ロシア語／巽由樹子ゼミ）
「『歴史総合』新設に見る歴史政策の可能性：新学習指導要領と教科書検定制度の検討」
髙橋美桜（たかはし みお）（東アジア地域／中国語／倉田明子ゼミ）
「イギリスの反アヘン運動に対する中国知識人の反応：『中外除戒洋煙策論』を中心に」
東大晴（ひがし たいせい）（西アジア・北アフリカ地域／アラビア語／青山弘之ゼミ）
「ジハード団の動員構造－フレーミング概念からの分析」
森麻里永（もり まりな）（アフリカ地域／英語／大石高典ゼミ）
「『統合』政策を生きる：パンデミック前後・北ノルウェーのソマリ系住民と私の民族誌」

■ 現代世界論コース

新朋香（あたらし ともか）（東南アジア地域／インドネシア語／金富子ゼミ）
「シングルマザー間の経済格差とその要因」

大橋彩乃（おおはし あやの）（中央ヨーロッパ地域／ドイツ語／小野寺拓也ゼミ）
「近現代ドイツ移民労働史と女性：18 世紀後期から 1970 年代ドイツの女性移民労働における連続性と非連続性の考察」

澤田まりん（さわだ まりん）（中央ヨーロッパ地域／ドイツ語／上原こずえゼミ）
「1990 年代以降のフィジーにおける観光産業：フィジー人社会への影響の視点から」

髙橋瑞季（たかはし みずき）（南アジア地域／ベンガル語／加藤美帆ゼミ）
「バングラデシュにおける中等教育普及と社会の持続的な発展に向けた課題」

藤巻まりな（ふじまき まりな）（西南ヨーロッパ地域／フランス語／真島一郎ゼミ）
「《貴婦人と一角獣》がはらむ両義性：中世ヨーロッパ聖俗の混在を想起する」

松本日和（まつもと ひより）（西アジア・北アフリカ地域／トルコ語／大川正彦ゼミ）
「『獣になれない私たち』が描く可能性：女性同士の連帯と解放を読み解く」

■ 国際関係コース

瀬上里菜（せがみ りな）（西南ヨーロッパ地域／フランス語／内山直子ゼミ）
「フィンランドにおけるベーシック・インカム給付社会実験に関する一考察：「失敗」と呼ばれた原因に着目して」

山﨑有紗（やまざき ありさ）（中央アジア地域／ロシア語／篠田英朗ゼミ）
「ウクライナ危機を長期化させている紛争当事者の地政学的利益の分析」

和島左京（わじま さきょう）（北アメリカ地域／英語／中山裕美ゼミ）
「フィンランドの領土拡張運動とリアリズム：1939 年から 1941 年における対外政策決定過程の分析を通じて」

2020 年度卒業式（撮影：初沢亜利）

7. 卒業後の進路

就職（2015 年度～ 2020 年度の主な就職先）

公務
外務省
防衛省（※自衛隊等含む）
国土交通省
警視庁
東京都庁
製造業
（株）ブリヂストン
（株）小松製作所
沖電気工業（株）
日本電気（株）(NEC)
富士電機（株）
（株）豊田自動織機
日産自動車（株）
トヨタ自動車（株）
ダイキン工業（株）
パナソニック（株）
スズキ（株）
本田技研工業（株）
富士通（株）
三菱電機（株）
富士フイルム（株）
（株）日立製作所
ENEOS ホールディングス（旧ＪＸＴＧエネルギー（株）)
（株）東芝
日本製鉄（株）
三井化学（株）
横河電機（株）
京セラ（株）
カシオ計算機（株）
住友電気工業（株）
三菱自動車工業（株）
矢崎総業（株）
日本アイ・ビー・エム（株）
いすゞ自動車（株）
川崎重工業（株）
学術研究、専門・技術サービス業
アクセンチュア（株）
アビームコンサルティング（株）
（株）イデア・インスティテュート
デロイトトーマツコンサルティング（同）
アンダーソン・毛利・友常法律事務所
（株）クニエ
森・濱田松本法律事務所
（株）セプテーニ・ホールディングス
（株）野村総合研究所
PwC コンサルティング合同会社
情報通信業
日本放送協会 (NHK)
（社）共同通信社
日本オラクル（株）
（株）朝日新聞社
（株）日本経済新聞社
読売新聞グループ
（株）NTT データ
グーグル（同）
ソフトバンクグループ
日本ビジネスシステムズ（株）
（株）ワークスアプリケーションズ
楽天（株）
金融業、保険業
（株）三井住友銀行
大和証券（株）
（株）みずほフィナンシャルグループ
（株）損害保険ジャパン日本興亜
東京海上日動火災保険（株）
SMBC 日興証券（株）
三井住友海上火災保険（株）
（株）ジェーシービー
明治安田生命保険（相）
三井住友信託銀行（株）
第一生命保険（株）
卸売業、小売業
三菱商事（株）
住友商事（株）
三井物産（株）
丸紅（株）
伊藤忠商事（株）

伊藤忠丸紅鉄鋼（株）
ジョンソン・エンド・ジョンソン（株）
豊田通商（株）
（株）ファーストリテイリング
運輸業、郵便業
東日本旅客鉄道（株）
日本通運（株）
全日本空輸（株）
日本航空（株）
（株）商船三井
（株）二葉
（株）日立物流
三菱倉庫（株）
郵船ロジスティクス（株）

サービス業
（独）日本貿易振興機構（JETRO）
（独）国際交流基金
（株）パソナ
（株）プリンスホテル
鉱業、採石業、砂利採取業
国際石油開発帝石（株）
（独）石油天然ガス・金属鉱物資源機構
電気・ガス・熱供給・水道業
電源開発（株）J-POWER
建設業
JFE エンジニアリング（株）
生活関連サービス業、娯楽業
JTB グループ
不動産業、物品賃貸業
イオンモール（株）

大学院進学（2017 年度～ 2020 年度の主な進学先）

東京外国語大学大学院	筑波大学大学院
一橋大学大学院	慶應義塾大学大学院
東京大学大学院	北海道大学大学院
京都大学大学院	東京芸術大学大学院
早稲田大学大学院	首都大学東京大学院

Welcome Messages

松隈 潤 先生
国際関係コース

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私は 2009 年に本学に着任いたしましたので、14 回、新入生をお迎えしたことになります。それ以前の 17 年間は私立大学におりましたので、合計で 30 回ほど卒業式や入学式に出席したことになるのだろうと思います。皆さんの先輩たちに再会したり、嬉しい連絡をいただいたりする機会も増えました。

難民問題に関心を有していた学生がいました。大学院に進学し、国際機関インターンシップを体験して、 難民支援活動を行っている NGO に就職しました。その後、国連職員になったと聞きました。安全保障の問題に関心を有していた学生がいました。防衛省に入省し、研修でオランダに留学するということで、推薦状を書きました。ドイツ語を一生懸命、勉強していた学生がいました。外務省に入省し、ミュンヘンの総領事館勤務の後、タンザニアの大使館に赴任すると聞きました。青年海外協力隊でザンビアに派遣され、水泳の指導員として活躍した学生がいました。アフリカとの関係は続き、今も JICA 等で国際協力に従事していると聞きました。

金子みすゞの詩の中にある「みんなちがって、みんないい。」という言葉を思い起こしています。

Welcome Messages ～私の進路

藤巻 まりな さん
西南ヨーロッパ／フランス語
現代世界論コース
真島ゼミ・４年生（21 年度卒）
就職先：外務省（専門職）

本学国際社会学部へのご入学、おめでとうございます。この度は、卒業後の進路について皆様にお話する機会をいただき、大変嬉しく思います。私は今春より外務省に勤めることとなりましたが、入省を目指したきっかけとしては、留学先のフランスでの人々との出会いやパンデミックの経験に触発されたこと、そして大学での学びを活かしたいと考えたことが挙げられるかと思います。学生として時間を過ごすなかで、自分という存在の不確かさを感じ、やりたいことも分からずもがくうちに、身に着けた語学力や世界と向き合う姿勢をツールとして働きたいとの思いが徐々に明確になりました。この場を借りて、外交官になりたいと考える方にもそうでない方にもお伝えしたいのは、大学では様々な分野の学問にふれることが大切であるということです。私自身、学び得た種々の知識・経験が、己の人間性を豊かなものにしてくれたと感じています。始めはとっつきにくいと感じる分野があったとしても、色々なことを吸収していく過程で、興味や関心は次々にアップデートされます。是非、その都度の直感に素直に従ってみて下さい。必ずしも就職先を見据えて選択肢を限定する必要はありませんし、どんな道を選ぼうとも全てが財産となるような学びが、この国際社会学部には詰まっています。本学で学ばれる皆様にとって、大学生活が実りあるものになることを願っております。

友人との卒業旅行で訪れた山形の銀山温泉にて

留学先のロシア連邦ニジニノブゴロド州ロバチェンスキー大学の学祭でベリーダンスをソロで踊ったときの１枚

東京外国語大学、国際社会学部へようこそ！私の大学生活は、未知のものに飛びこみ続け、楽しみつくしたものでした。その先々 の文化や街にふれたことで、地に足つけて生きる、世界中の人々に出遭い続けたい、その姿を描きたい、そして誰かに伝えたいと思ったことが NHK のディレクターを目指したきっかけです。是非、好奇心に突き動かされてください。私は、新歓での先輩の踊りに強く惹かれ、入部したベリーダンス部で、初めて身体や空間に向き合いました。留学は、0 から自分で切り開く留学がしたくて、ロシアの片田舎にしました。現地の学祭の、完全にアウェイな場でベリーダンスを一人で踊り、大きな歓声をもらったのは一番の思い出です。ゼミは、一年生の時に一番衝撃を受けた授業の教授のところへ飛びこみました。そして、留学先で出遭ってしまったテーマについて、ゼミ論と卒論を書きました。これからの出会いがあなたを形づくります。そして幸運なことに、外大には、面白い人たちがたくさんいます。あなたの興味が尽きることはないでしょう。そしてきっと、信じられないほどにまで、自分をゆだねてしまえる人たちでしょう。鼓動に素直に、世界を踊ってください。そして、言葉を、語りを意識してください。そうすれば、外大のその先も切りひらけるはずです。

小山 菜生 さん
ロシア／ロシア語
現代世界論コース
真島ゼミ・４年生（21 年度卒）
就職先：NHK（ディレクター、全国職員）

藤田 梨花 さん
東アジア / 中国語
地域社会研究コース
倉田ゼミ・4 年生 (21 年度卒)
就職先：オーデリック株式会社 (情報システム)

私が未経験でありながら情報システムの仕事を目指したのは、社会に出て新たなことに挑戦してみたいと思ったからです。私は部活動で男子サッカー部のマネージャーとして選手のサポートやチームの運営に尽力しました。マネジメント経験も運動経験もない自分にマネージャーの仕事が務まるか不安でしたが、最後の学生時代に新しいことを始めたい、何かに本気で取り組みたいという思いで活動を始めました。大変なこともありましたが、チームの成長を近くで感じることができ、とてもやりがいがありました。マネージャーとしてチームを支えた経験から、自分が主体となって何かを成し遂げるよりも誰かをサポートする仕事がしたいと思うようになり、企業を根底から支える情報システムという仕事に魅力を感じました。未経験である上にこれまで大学で専攻してきたことと違う分野に進むことに迷いはありましたが、部活動を始めたときのように新しいことに挑戦することが自分にとってもプラスになると思い、情報システムの仕事に就くことを決めました。大学は、勉強、サークル活動、アルバイト、インターンなど、新しいことにチャレンジする機会であふれています。いろんな経験をして、自分の視野を広げてください。

部活動引退前最後の試合で、お世話になった先輩方と一緒に撮った 1 枚（筆者右）

オーストラリアのバララットにて

中野 智仁 さん
オセアニア／英語
国際関係コース
中山裕美ゼミ・4 年生（21 年度卒）
進学先：一橋大学大学院

私が進路を大学院一本に絞ったのは大学 4 年の春でしたが、その決心をもたらした「種」は、大学生活のあちこちに散らばっているように思います。その「種」とは、学びを通して生じる「なぜ」です。私は大学院では、先住民族の権利を保障する国際制度や規範の形成過程について研究する予定ですが、このテーマは、大学 4 年間の学び（授業や読書、講演、旅行、留学など）を通して生じた疑問の集大成であり、それを解決せずに職には就けないと考えて進学を決めました。大学入学時には院進など考えもしなかった私ですが、学びを深めるほど様々な「なぜ」が浮かび、こうした「なぜ」が新たな学びを後押ししてくれたのです。これから大学生活をスタートさせる皆様、あまりに凡庸な表現ですが、得手不得手かかわらず、そして知らないことにも色々手を出してみてください。最初は気乗りしなくとも、探究すれば案外面白さは見つかります。こうした幅広い学びの中で生まれる「なぜ」は、新たな学びの原動力となり、皆様の卒論や進路選択の軸となって生きてくるはずです。

8. 学生生活で困ったら

TUFS Academic Support Center（たふさぽ）

～みなさんの大学時代の学びを支える場となることを願って～

ご入学おめでとうございます。大学生活が始まると、「いろいろ勉強してみたい！でも何から始めたらいいのだろうか？」、「自分の問題関心って、どうやってつくれるの？どうやって広げられるの？」、「問いを立てるって、レポートを書くって、どうすればいいの？」、「授業になんだかついていけない」、「入学前に思い描いていた大学生活と、全然違う・・。」など、戸惑い、不安、悩みをもつこともでてくるかと思います。

そんなとき、ぜひ、たふさぽを利用してください。

1. 教員・大学院生などからなるスタッフがみなさんの学修をサポートします

TUFS Academic Support Center（たふさぽ）では、TUFS Record（たふれこ）、学修活動履歴書、ディプロマ・サプリメントに関するサポート、履修に関する相談、学内の各種学修プログラムや特別授業の紹介を行っています。将来のために何に取り組むべきか迷ったとき、どうやって自分の興味関心を広げたらよいのか悩んだときなど、たふさぽを活用してください。

1-1. TUFS Record(たふれこ)

学内外の多様な学修活動を記録するシステム「TUFS Record」（たふれこ）は、自分自身を振り返って客観的に見つめ直すことがしやすくなり、課題が明確になるツールです。「TUFS Record」に登録された情報は、「学修活動履歴書」と「ディプロマ・サプリメント」の重要な情報源となります。

たふれこって何だろうと関心を持ってくださった方は、ぜひ、「TUFS Moodle」にアクセスしてみてください。マイコースから、「TUFS Record（○○年度入学者）」のコースに入っていただくと、たふれこが始まります。

自分で登録・編集できない情報は、指定の登録申請フォーム (Google フォーム) から届け出てください。毎年、みなさんが自主的に受験した外部試験結果（英語と英語以外の言語）について、多数の届け出があります。

外部試験結果申請例：TOEIC、IELTS、TOEFL、ドイツ語（ゲーテ・ドイツ語検定試験）やフランス語（実用フランス語技能検定試験）、イタリア語（実用イタリア語検定試験）、中国語（HSK）など。

★たふれこについては、例年春学期に新入生を対象としたガイダンスを開催しています。たふれこの活用方法について説明しますので、ぜひご参加ください。

1-2.　ミニ相談・学修相談

■たふさぽ窓口では、TUFS Record（たふれこ）に関する問い合わせや学習に関連するさまざまな相談を受け付けています。これらの質問や相談は「ミニ相談」として、教員や大学院生などからなるスタッフが対応します。事前予約不要です。お気軽にお越しください。

■履修の仕方（自分の興味・関心と履修など）や卒論の書き方、ゼミ選択、転学部、転学、大学院進学など、時間をかけて相談したいことがある場合には、教務アドバイザー小林先生・金井先生の「学修相談」を予約してください。

■最新の予約方法などは、たふさぽ HP をご確認ください。

■ 2021 年度国社の学生さんからの相談例：履修の仕方、オンライン授業での集中力・モチベーションの維持、ゼミ選択、コロナ禍での留学の計画と進路、卒論の書き方・進め方、テーマ設定、休学期間の過ごし方、復学にあたって、転学部、転学、大学院進学など。

1-3. たふさぽ・おしゃべり会（オンライン／対面／ハイブリット開催）

■コロナ禍にあっても、学生のみなさん同士がつながり・話せる機会を作りたく、2020 年度秋学期より、たふさぽ・おしゃべり会を開催しています。

■毎回 10 名程度の方が参加をしてくれ、その時々のトピックについて、たふさぽ・スタッフを交えておしゃべりをしています。

■学部やゼミ、学年をこえたゆるやかなつながりの中で、アイディアやひらめき、共感がうまれています。

■ 2022 年度も春学期より、おしゃべり会を企画しています。よかったらぜひご参加ください。企画のアイディアも絶賛募集中です！

2021 年度開催おしゃべり会一覧

2. たふさぽスタッフからみなさんへのメッセージ

教務アドバイザー

たふさぽの教務アドバイザーの小林幸江です。私は、2015 年から旧学生相談室 、2020 年度から現たふさぽの相談員をしています。履修関係を中心に、いろいろな学生から相談を受けています。相談の中身はいろいろですので、相談してすべてが解決するわけではありません。しかし、相談することで、解決への糸口が見つかることも多いのではと感じています。

相談すると言っても、ただ話を聞いてもらうだけでよいという人、ちょっとの後押しで再び前に進んでいく人等、学生の相談の受け止め方はさまざまです。悩んだときは、第三者の考えを聞いてみるのもよい解決策です。

コロナ禍で移動も人との接触も制限されています。そのような状況の中で、1 人思い悩むことなく、気軽にたふさぽに相談してください。

教務アドバイザー

こんにちは。教務アドバイザーの金井光太朗です。3 年前まで国社の教員でアメリカ地域を担当し政治史が専門でした。大人となって多様な出会い、交流、そして活動の場が大学です。でも今はコロナ禍での大学生活も 3 年目。限られた条件の下自分自身で積極的に活動する必要があります。自分自身に向き合い、自分の本当にやりたいことを見つめる。やりたいことに力を尽くす。それは疑問、悩みが尽きません。自分で頑張るのはもちろんですが、その際に人の意見も参考になります。基本的な情報から大きな進路の選択まで、自分の悩みもこれまで人が悩んできたことです。自分だけではないのです。それを知り自信を持ってやりたいことを目指して下さい。たふさぽでは、レポートや質問のしかたなど具体的なことから大学生活や将来のことまで皆さん自身の気づきを応援します。

たふさぽ室内の様子

たふさぽスタッフ（国際社会学部卒・博士前期課程 2 年）：

大学生活は、それまでの学校生活とは大きく違って、やりたいことに何でも挑戦できる貴重な 4 年間です。しかし、そういった自由や楽しさがある一方、孤立して悩みやすかったり、相談できる人がいなかったりと大変なこともあると思います。たふさぽは人との繋がりを持てる場所です。授業やレポートなど学術的な悩みから学生生活全般の相談、学生同士の交流の場としてのおしゃべり会など様々な面からサポートいたします。是非お気軽にお立ち寄りください。

たふさぽスタッフ（国際社会学部卒・博士前期課程 1 年）：

大学という場では、自分の興味関心や問題意識のあるテーマについて学ぶことができます。そして、それは、みなさん自身が生きている社会を問い直すことにつながります。自分の考えたことを言葉にしてあらわし、先生や他の学生と共有することを通して、自分にとっての「問い」を見つけてください。学ぶということは、競争に勝つことでも、他者を負かすことでもありません。自分自身の「問い」を考え、自分自身と向き合うことです。もしも、その途中で困難に直面したとしても、みなさんは一人ではありません。自分の「問い」を手放さないでください。たふさぽで一緒に考えましょう。

たふさぽ・センター長

たふさぽ・センター長の布川あゆみです。コロナ禍の影響が長期化し、学生のみなさんの苦悩、生きづらさを目の当たりにし、サポート機関として、教員の一人として、どのようにかかわり、みなさんの学びを支えていくことができるのか、考える日々が続いています。しかし、みなさんが届けてくれるさまざまな「声」から、多くの気づきをもらい、学生支援のあり方を検討することにつながっています。

みなさんが気軽に利用できる場でありたいと願っています。ちょっとした時に、寄ってください（ヘッドセット忘れた、、などなど）。スタッフ一同みなさんとお会いできることを楽しみにしています。

3. たふさぽへのアクセス

場所：研究講義棟 1 階北側エントランス横

開室時間：春・秋学期 月曜～金曜　10：00 ～ 15：00

（※ 12 時 45 ～ 13：30 はお昼休憩のため閉室）

お問い合わせ先

TUFS Academic Support Center

住所：〒 183-8534　東京都府中市朝日町 3-11-1

電話：042-330-5885

メールアドレス：academic-support-center@tufs.ac.jp

たふさぽ HP: http://www.tufs.ac.jp/institutions/facility/tufssupport/

学習相談デスク

～図書館の学習相談デスクをご活用ください～

大学ではレポートやゼミ発表、卒業論文といった 課題が出されますが、誰でもすぐにできるものではありませんし、初めてのときはわからないこともたくさんあるのではないでしょうか。こうした学習上の悩みを相談できる場所として、図書館には「学習相談デスク」が開設されています。学習相談デスクでは、さまざまな言語や分野を専門に持つ本学の大学院生が「多言語コンシェルジュ」として学習支援を行っています。

学習相談デスク

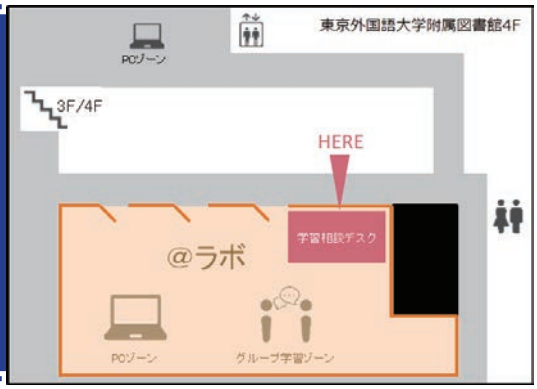
場所：附属図書館 4 階＠ラボ内

時間：平日 12:00-19:00（授業期間中）

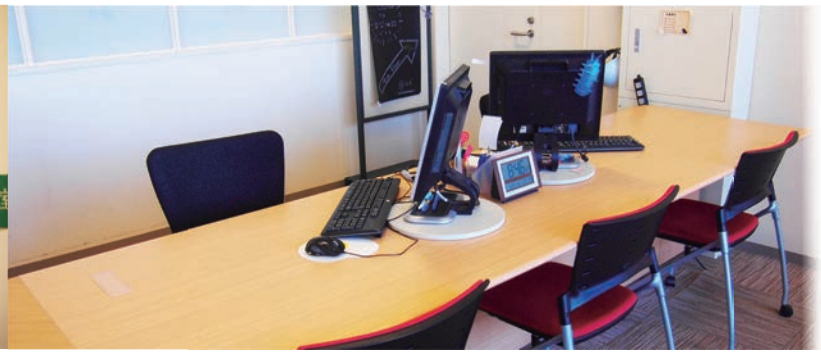
詳しくは学習相談デスクホームページをご覧ください

学習相談デスクホームページ

http://www.tufs.ac.jp/blog/is/g/sodan/



学習相談デスクでは、本学の大学院生が多言語コンシェルジュとして、学生の学習相談にのっています。また、大学で学ぶ上でのお役立ち情報・知識についてまとめた配布物を配布しています。



相談できること

・レポート・論文の書き方（テーマの決め方構成・文献の探し方・引用の方法・体裁…etc.）
・語学の勉強法
・日本語アドバイス（留学生の方）
・経験談紹介（ゼミ選択・大学院進学・留学等）

など、大学の学習・研究に関わることで、年間 400 件をこえるさまざまな相談を受けています。

専攻言語・分野が多岐にわたる 10 名程度のコンシェルジュが相談に対応しているため、相談内容にあった多言語コンシェルジュがきっと見つかります。ホームページ上で多言語コンシェルジュのプロフィールと当番表を公開していますので、ご自身の興味・関心により近い専攻のコンシェルジュをさがしてみてください。

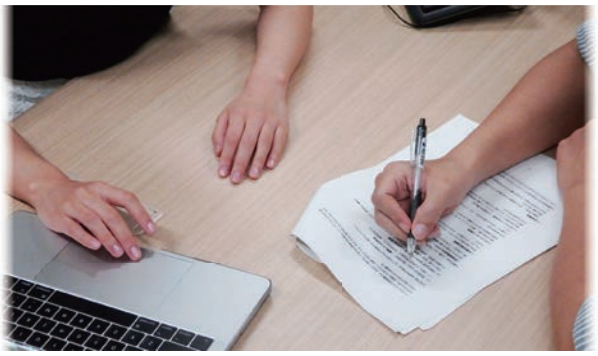
学習相談デスク当番表：http://www.tufs.ac.jp/blog/is/g/sodan/toban.html

多言語コンシェルジュプロフィール：http://www.tufs.ac.jp/blog/is/g/sodan/profile/

※学習相談デスクで対応していない問い合わせ

図書館の利用について→サービスカウンター（附属図書館 2 階）へ

パソコンの使い方→ ICC カウンター（附属図書館 4 階エレベーター脇）へ



利用方法

基本的には予約不要です。学習相談デスクにお越しいただき、空いていればその場で多言語コンシェルジュから「相談記録シート」をもらい、記入の上相談してください。

新型コロナウイルス対応

オンライン授業が多く来学する機会があまりない方への対応として、事前予約とメール相談を受け付けています。予約は不要と書きましたが、先に相談している人がいて相談できなかった、ということを避けるため、確実にこの日のこの時間に相談したい、という場合は事前に予約しておくことも可能です。また、相談内容にメールで回答することも可能です。詳しくは図書館 HP をご確認ください。

学習相談デスクの良い点は、同じ課題を経験した身近な「先輩」たちから実体験に基づくアドバイスを受けられることです。

また、学習相談デスクで自分の考えを話し、議論をしたり、多言語コンシェルジュからアドバイスをもらったりすることで自分自身の考えを整理し、見直すことができます。その結果、新しい考えが生まれたりもします。

“先生に相談するにはハードルが高い”、”ゼミ発表前にちょっと相談したい”、”レポートや卒論をどう進めたらよいかわからない…”。そんなときはぜひ学習相談デスクをご利用ください。

学生相談室

～心豊かで実りある学生生活を送るために～

忙しい日々のなかで、どうしたら元気に学び、心身ともに成長していけるでしょうか？
誰もが過ごしやすい大学生活を皆で作るにはどうしたらいいか、またストレスと上手に付き合う方法などをご紹介していきます。

1.　学生生活サイクル（鶴田 , 2001 より抜粋）

大学生活では、それぞれの時期に応じ、心理的な課題を持つと言われています。大学生は、「自分は何者なのか？」という問いを抱えながら、さまざまに試行錯誤する時期でもあります。うまくいくことも、いかないことも、上手に整理できたら将来の糧になってくれることでしょう。一つ一つの時期をゆっくり乗り越えていきましょう。

	入学期（1 年生）	中間期（2 ～ 3 年生）	卒業期（4 年生）
課題	新しい生活に慣れる 多くのことを自分で決める 大学のカリキュラムに慣れる、 関心領域を選ぶ 目標設定　新しい対人関係	自分らしさの探求 自分を見つめ、関心を絞る 将来の進路選択の準備 対人関係の深まりと広がり	将来への準備 卒業論文の完成 卒業による別れ 進路の決定
心理的特徴	入学したことについての気持ちの整理（達成感、戸惑い、違和感など） 受験勉強から、自分の興味や関心に沿った勉強への切り替え 現在の進路の受容	生活の管理（時間の過ごし方、食事等） 自分らしい生活の展開 友人関係の問題 内的世界を豊かにする、それを言葉にする力	進路決定にあたって内面と現実の統合 経験を積み重ねる 現実生活を生き抜く 学生生活をまとめる

2．大学生活の特徴

大学に入ると、高校までのように決められたカリキュラムはありません。また、「正解」が見つからずに戸惑う人もいます。皆さんが何に興味があって、どんなふうに考えるか、どうしたいか、突然「主体性」を求められる生活になります。また皆が同じことをするわけではないので、誰に聞いたらいいかわからなくなることもあるでしょうし、スケジュールの管理が難しくなるかもしれません。

そんな時は、まず 1 日のスケジュール、 1 週間の生活を書き出してみましょう。①まず、やることリストを作ります。（例）「家事」ジャンルでやることは洗濯と買い出しと料理とお皿洗い。「勉強」ジャンルは授業の予習復習、課題。「部活」「アルバイト」・・・色々、まずは思いつくことを書き出します。そして、②やることを一週間の予定に入れていきます。あれ？はみ出しているぞ、なんてこともしょっちゅう起こります。優先順位をつけて、現実的にできる範囲のことをする習慣をつけていきましょう。

3．大学生活におけるユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザイン、という言葉を聞いたことがあるでしょうか。この言葉は、Ronald Mace という人が、「年齢や能力、状況などにかかわらず、デザインの最初から、できるだけ多くの人が利用可能にすること」という意味で使い始めました。

私たちの周りにあるデザイン（階段の高さ、通路の幅など）は、大多数の健康な人を前提としてデザインされています。怪我した時や、乳幼児を連れた人、高齢の人をサポートする時、移動に苦労したことはありませんか。ユニバーサルデザインとは、たとえ人数はごく一部であっても、困難がある人の存在を前提として全体を考えるものです。そうすれば、健康な人も、もし途中で怪我をしたりして、困難がある側に回ったとしても、生活で苦労することがなくなりますね。

これを、大学生活に当てはめてみるとどうでしょうか。大多数の元気な学生は、知らないうちに、「便利さ」という利益を享受しています。しかし、少数派で、目に見えないかもしれませんが、一部の困っている人たちは、他の人がスイスイと進んでいくところで実はとても苦労しています。授業や課外活動も、元気で理解力のある人だけを前提にするのではなく、困っている人も一緒にできるように考えてみることを、ここでは「大学生活のユニバーサルデザイン」と呼んでみましょう。

4．こんなことで困っている人がいます

理解力がとても高くても、咄嗟に質問されるとすぐには答えられない人もいます。なかなか考えがまとまらなかったり、言葉が出なかったり。長文を書くのに、人よりずっと時間がかかる人もいます。本を読むのはとても得意でも、耳から入ってくる情報は聞き逃してしまう人もいます。その逆で、字面で読んだだけではなかなか頭に入らない人もいます。あるいは、大学に入って授業が一人一人違ってきて、スケジュール管理が大変になり、予定をうっかり忘れて困ってしまうこともあります。細かいところが気になって先に進めなくなる。思った以上にスケジュールを詰め込みすぎて疲れてしまう。部屋が片付けられずに、初めての一人暮らしに奮闘している人もいるでしょう。

また、自分の身体の性別に違和感がある人もいます。まだ、女性でも男性でもないような、その間で揺れていることもあります。好きになった人が、いわゆる「異性」ではないこともあります。人にはなかなか言えないながらも、ずっと違和感を抱えている人もいるのです。

また経済的に苦労して、親や家族の介護をしながら受験勉強をして入学した人もいます。家族関係に悩んだり、自分の気持ちの安定を保つことに苦労している人もいます。

世間では「当たり前」と言われることも、意外と当たり前ではないことが、身近に沢山あるようです。

5．では、どうしたらいい？

＜困っている人がいたら声をかけてみよう＞

「おはよう」など、まずは挨拶をしてみてください。顔見知りになったら、困っていそうな部分で力になったり、「何かできることある？」など聞いてみることも役に立つかもしれません。時間がかかる人がいたら、急かさずにゆっくり待ってみましょう。ただし無理はしないように、自分にできる範囲のことだけで構いません。

＜スケジュールは視覚的に共有を＞

何かをする時には、いつ誰が何をするか、表や図など、視覚的にまとめるとわかりやすくなり、気づいていなかったことにも気づきやすくなります。全体の計画と見通しを共有しながら、ついていけない人が出ないように工夫しましょう。

＜連絡事項は口頭だけでなく、文面でも＞

授業や行事などで連絡を取り合うとき。口頭で言っただけでは、忘れてしまう、あるいは聞き逃してしまう人もいます。言った自分も忘れてしまうかも！できれば大事な連絡事項は、口頭だけではなく LINE やメールなど文面でも残しておくようにしましょう。

＜経済状態は人によって違います＞

経済的に恵まれて来た人も、苦労してきた人もいます。苦労の質は違えど、それぞれの環境で努力したから今があります。今得られるサポート、できることを探して頑張っていきましょう。

＜専門家の助けを借りよう＞

大学では、今まで出会ったことがないような多様な人に会うことができます。今まで自分が育った環境にはいなかったような人もいることでしょう。誰が何に困っているか、わからないのも当然のことです。困っている人がいるけれど、自分ではどうすることもできない場合には、その人に専門家に相談することを提案してみてください。学生相談室には専門のカウンセラー（臨床心理士）がおり、相談した人の秘密は守られますので、安心して相談することができます。

＜性別に関する言葉を大切に＞

相手を呼ぶときに、「～ちゃん」「～くん」と親しみを込めて呼んだつもりでも、知らないうちに性別を決めて話しているため、不快感を与えていることがあります。まずは「さん」とニュートラルによんでみましょう。呼び方を変えるときは、それでいいかどうか、相手に尋ねてみるのもいいでしょう。また、恋人について「彼氏いる？」「彼女いる？」などの言葉も、実は異性愛を前提にしてしまっているので、注意してみてください。「付き合っている人いる？」でもいいかもしれません。もし、その人のセクシュアリティやジェンダーについて打ち明けられたら、それを本人に断りなく他の人に話さないようにしましょう。「アウティング」と言って、当人をとても深く傷つけてしまう可能性があります。セクシュアリティについて面白がって冗談を言うことや、噂話も、平気そうに見えて、実はとても傷ついている人がいる可能性があります。誰にも言えずに心の中で悩んでいる人がいることを、忘れずにいてくださいね。

「大学生活におけるユニバーサルデザイン」いかがでしょう？

自分が誰かにしたことは、いつか自分に返ってくるかもしれません。「情けは人のためならず」、誰もが生きやすい環境を作ることは、自分が生きやすい環境を作ることでもあります。どうぞ無理なくできることから、トライしてみてください。

5.「合理的配慮」とは

障がいを抱えた学生は、大学に合理的配慮申請を行うことができます。「障害者差別解消法」に基づき、困難を持つ学生が、主に授業の中で生じる社会的障壁を除去し、学習の機会を確保するために置かれた制度です。医療機関の診断書や障がいを示す書類とともに、その学期の履修修正期間までの間に教務課に申請書を提出し、審査が通ると、配慮を受けることができます。どんな場合にどのような配慮を受けることができるのか、気になる場合は学生相談室や保健管理センターにご相談ください。

＊これは単位取得を保障する制度ではありません。あくまで、障がいに鑑みて合理的と判断され、大学にとって過重な負担にならない配慮を大学側がすることで、ご本人の学びを助ける制度です。

6．危機に出会ったら

事件や事故だけでなく、感染症や社会不安、国際情勢など、残念なことに、私たちは突然危機に見舞われることがあります。そんなとき、私たちの身体はこんな風に反応します。

青信号：安全な状態。人と繋がって安心を維持できる。

黄信号：危険！戦うか、逃げなくては！いますぐ！

赤信号：生命の危機。もう逃げられない。シャットダウンして命を守ろう。

（「ポリヴェーガル理論入門」Porges, 2018）

赤信号の状態に陥ると、身体がフリーズして脱力し、身動きが取れなくなります。身体的な記憶として残ってしまい、関連した出来事に近づけなくなったり、怖くなってしまったりします。

黄信号のときは、動悸がしたり大汗をかいたり、眠れなくなったりします。いずれも、安全を確保できる青信号の状態に戻るまで、時間とケアが必要になります。

人間にとって落ち着いていられる青信号の状態は、誰かと安心してつながっていられる時のようです。ショックな出来事に遭遇したら、まずは物理的な安全を確保しましょう。なんとか安全な場所に移動したら、少しずつ赤信号、黄信号を解いていきます。動けなくなる、パニックになるのは、当然の反応です。落ち着いて、少しずつ、誰かと一緒に過ごす時間をとるようにしてください。SNS で誰かと繋がること、人と連帯することも安心に繋がることがあります。思い出すと楽しい気分になれること、好きなことをして過ごしましょう。もしも、集中できない、落ち着かない、眠れない、強い感情に襲われるなどの状態がなかなか戻らない場合には、早めに専門家に相談しましょう。

＜ほっと一息＞

一人でいて落ち着かない時は、ゆっくりと呼吸してみましょう。１、２、３、４、５と５つカウントしながらゆーっくりお腹を膨らませ、５つ止め、５つカウントしながらゆーっくり吐きます。両手を身体の前でクロスさせ、右手を左肩に、左手を右肩に当てて、トントンとしながら同じように呼吸をしてみます。

深呼吸を繰り返しながら、楽しいこと、好きなものを思い浮かべてみてください。元気にしてくれた映画のシーン、犬や猫、海辺の景色、人。。。

自分の体が椅子や地面にしっかり支えられていることを感じます。自分の周りの空間、上には空が広がっていることも感じていきましょう。少しずつ、落ち着いてきたら、その気分をゆっくりと味わってみてください。

7.「いのち」を守ろう

あまりに辛いことが続くと、視野が狭くなってしまい、「もう生きていてもいいことはない」「死んでしまった方が楽だ」と思えてしまうことがあります。これは誰にでも起こりうることです。

周囲の人にほんの少しだけできることがあります。「気づき」「傾聴」「つなぎ」「見守り」です。

命を守ることは、悩んでいる人に寄り添い、孤立や孤独を防ぐことから始まります。あなたの親しい人が、「あれ、いつもと違う」「様子がおかしいな」「死にたいと言っている」「自殺を試そうとする」などに気づいた時には、相手の話を否定せず、ひとまず耳を傾けてみましょう。聴き終えたら、「心配している」ことをゆっくり、わかりやすく伝え、どうしたらいいかを一緒に考えてみてください。あまりに具体的に考えていたり、自分達だけでは解決できないと思ったら、臆せず専門家の助けを仰ぐようにしましょう。どう接したらいいかを学生相談室に相談するのも一案です。ご本人が相談するには、電話相談など匿名で相談できるものから、大学の学生相談室など対面で話をじっくり聴ける場所まで、相談先は沢山あります（学生相談室のホームページを見てみてください）。本人がつながりやすいところにつなぎましょう。そしてその後の様子を見守っていてください。

ご本人の問題をあなたが解決しようとしなくていいのです。周囲の人にできることには、必ず限界があります。ご本人が自分なりに取り組んでいくのを、理解者として温かく見守っていて下さい。

https://www.mhlw.go.jp/mamorouyokokoro/gatekeeper/

学生相談室とは

学生相談室にはカウンセラーの臨床心理士（常勤 1 名、非常勤 4 名）と受付のスタッフがいます。
基本的には対面（コロナの感染状況が悪化したときは電話や zoom）で、1 回 50 分あるいは 25 分の相談です。臨床心理士はとても厳しい守秘義務を負っていますので、ご本人の許可がない限りは、大学の教職員や家族など、ご本人以外の誰かに相談内容を漏らすことはありません。専門的なメンタルケアから、その学期を無事に乗り切るための手助け、困ってちょっとお話を聞いてほしい時など、どんなことも親身に相談に乗ります。自分はどうやって生きたいのだろう、自分はどんな性格なのかな？と探求してみたい場合にも利用できます。

学生相談室の相談の仕方

学生相談室 HP: http://www.tufs.ac.jp/institutions/facility/sccs/
受付窓口：保健管理センター棟 1 階 北口ドアより
開室時間：月～金 10 時～ 16 時（12 時 3 0 分～ 13 時 30 分はお昼休み）
相談申し込み方法
★電話 :042-330-5560(受付直通)
★直接受付に行く
★ Web から申込（大学の Google アカウントでログインが必要です）

Welcome Messages

福嶋 千穂 先生
地域社会研究コース
（学生担当学部長補佐）

ご入学おめでとうございます。
新型コロナ・ウィルス感染症の拡がりによって、物事を予定通りに進めることがこれまでになく困難な状況です。多くの外大生にとって当たり前になっていた留学が、また目指す業界への就職が、かなわないこともあるでしょう。理想の大学生活を奪われた喪失感は埋めがたいかもしれません。かといって過剰に悲観しないでください。夢や目標を持つことは大切ですが、「こうあらねばらない」と固執することは自分を不自由にします。うまくいかなかったとしてもそれまでの努力が無に帰すことはありませんし、そもそも、思い描いていた未来は無限にある可能性のひとつにすぎません。想定外の事態に対処する中で新しい着想を得たり、それまで眼中になかった方面に思いがけない突破口を見出したり、ポジティブな変化があるかもしれません。立ちはだかる問題にどう対処すればよいかわからないときには、一人で抱え込まないことです。家族、友人、ゼミ仲間や先生がたに話してみましょう。さらに学内には専門的見地からサポートを提供する体制があります（学生相談室、アカデミック・サポート・センター、グローバル・キャリア・センター等）。困ったときに、臆さずに訪れてはいかがですか？

9. 国際社会学部　教員一覧

国際社会学部で専修プログラムの授業を担当している専任教員の一覧です（この一覧には卒論演習を担当していない教員も含まれています）。

■地域社会研究コース

教員名	専門分野	研究室	e-mail
青木 雅浩	モンゴル地域研究、 中央アジア・東北アジア近現代史	826	masamon@tufs.ac.jp
青山 弘之	現代中東（西アジア・北アフリカ）の 政治・思想・歴史	837	aljabal@tufs.ac.jp
足立 享祐	インド地域研究、歴史学（近現代史）、 ヒンディー語	802	adachi.kyosuke@tufs.ac.jp
伊東 剛史	イギリス近代史，人と動物の関係史，感情史	626	t.ito@tufs.ac.jp
大石 高典	生態人類学、アフリカ研究、狩猟採集民、 森林と人間	506A	takanori@tufs.ac.jp
大鳥 由香子	北アメリカ地域研究、アメリカ近現代史、 子どもの歴史	659	yukako.o@tufs.ac.jp
小笠原 欣幸	現代台湾政治、台湾の選挙、中台関係	858	ogasawara@tufs.ac.jp
小田 なら	東南アジア地域研究、ベトナム現代史	514	naraoda@tufs.ac.jp
小田原 琳	イタリア近現代史、ジェンダー史	760	rodawara@tufs.ac.jp
川本 智史	中東地域研究（トルコ）、都市史・建築史	806	skawamoto@tufs.ac.jp
菊池 陽子	東南アジア近現代史、ラオス近現代史	639	kikuchiyoko@tufs.ac.jp
木村 暁	中央アジア史、中央アジア地域研究	834	s_kimura@tufs.ac.jp
日下 渉	フィリピンを中心とした東南アジア地域研究	637	HP で確認してください
久米 順子	スペイン中世美術史、西洋美術史、文化史	726	kumejun@tufs.ac.jp
倉田 明子	中国・香港近現代史（社会史、キリスト教史）	853	akurata@tufs.ac.jp
坂井 真紀子	農村社会学、アフリカ地域研究、村落開発	720	sakai_makiko@tufs.ac.jp
澤田 ゆかり	中国（含む香港）に関する社会保障と労働問題	852	sawada@tufs.ac.jp
篠原 琢	中央ヨーロッパ近・現代史（18-20 世紀）	718	takus@tufs.ac.jp
鈴木 義一	現代ロシア地域研究、ソ連史、比較経済体制論	704	ysuzuki@tufs.ac.jp
芹生 尚子	近世フランス史、史学史	761	nseriu@tufs.ac.jp
左右田 直規	東南アジア近現代史、マレーシア政治社会史	601	soda@tufs.ac.jp
高橋 均	ラテンアメリカ地域研究	732	hitoshi.takahashi@tufs.ac.jp
巽 由樹子	ロシア史、メディア研究	703	tatsumi@tufs.ac.jp
千葉 敏之	ヨーロッパ中世史、キリスト教史、 歴史資料体学	649	t-chiba@tufs.ac.jp

友常 勉	日本思想史、日本近現代史、社会運動史、日本のマイノリティ	707	ttmotsune@tufs.ac.jp
登利谷 正人	アフガニスタン・パキスタン地域研究・近現代史	851	toriya@tufs.ac.jp
萩尾 生	バスク地域研究、言語社会学	728	shohagio@tufs.ac.jp
福嶋 千穂	近世ポーランド・リトアニア史、前近代のウクライナ	717	fsch@tufs.ac.jp
藤井 豪	朝鮮近現代史、韓国現代社会	857	nareh0810@tufs.ac.jp
ポーター ジョン	都市社会史、地域史、民衆史、古文書学	522	jporter@tufs.ac.jp
舛方 周一郎	国際関係論、比較地域研究、ラテンアメリカ政治	618	s-masukata@tufs.ac.jp
宮田 敏之	東南アジア経済研究、タイ地域研究、タイ経済研究	531	tmiyata@tufs.ac.jp
山内 由理子	文化人類学、先住民研究、オセアニア地域研究	625	yuriko.yamanouchi@tufs.ac.jp
ルシオ デ ソウザ	近代ヨーロッパ - アジア関係	617	sousa.lucio@tufs.ac.jp

■現代世界論コース

教員名	専門分野	研究室	e-mail
上原 こずえ	社会学、沖縄現代史、社会運動史	551	uehara@tufs.ac.jp
大川 正彦	政治学（原論・政治理論）、倫理学、いのち論	546	okawa@tufs.ac.jp
小野寺 拓也	ドイツ現代史、ナチズム論、日常史、感情史、男性史	647	tonodera@tufs.ac.jp
加藤 美帆	教育社会学、家族社会学、ジェンダーと教育	528	mihokato@tufs.ac.jp
金 富子	ジェンダー論・ジェンダー史、日韓の性売買研究	552	hanul27@tufs.ac.jp
田邊 佳美	国際社会学、フランス現代社会研究、移住研究、交差性	723	yoshimi.tanabe.i@tufs.ac.jp
東城 文柄	地域研究、地理情報システム学、統計学、環境保全論	506C	tojo.b21@tufs.ac.jp
中山 智香子	社会思想、経済思想、グローバルスタディーズ	504	nakac@tufs.ac.jp
古川 高子	近現代ヨーロッパ史、ナショナリズム、アルピニズム	559	furukawa@tufs.ac.jp
真島 一郎	社会人類学、現代思想、西アフリカ民族誌	503	imajima@tufs.ac.jp
吉田 ゆり子	日本近世史、日本の文化財・地域社会の歴史	819	yoshida.yur@tufs.ac.jp

米谷 匡史	日本思想史・社会思想史、アジア論、植民地研究	820	yonetani@tufs.ac.jp
梁 英聖	レイシズム・スタディーズ	516	HP で確認してください

■国際関係コース

教員名	専門分野	研究室	e-mail
伊勢崎 賢治	平和構築、紛争予防	526	kenji-isezaki@tufs.ac.jp
内山 直子	ラテンアメリカ地域研究、開発経済学	731	n.uchiyama@tufs.ac.jp
岡田 昭人	比較国際教育学、異文化コミュニケーション	532	aokada@tufs.ac.jp
片岡 真輝	国際関係、記憶、歴史認識、オセアニア政治	631	HP で確認してください
菊地 和也	応用経済学、ゲーム理論	554	HP で確認してください
篠田 英朗	平和構築、紛争解決、国際秩序論、国際協力、国際組織	505	hshinoda@tufs.ac.jp
鈴木 美弥子	民法、消費者法、環境法	555	mysuzuki@tufs.ac.jp
武内 進一	アフリカ研究、国際関係論、国際協力論	401E2; AA 研棟 611	shinichi_takeuchi@tufs.ac.jp
田島 陽一	国際経済学、開発経済学、メキシコ経済論	556	tajima@tufs.ac.jp
出町 一恵	国際金融論、開発経済論	830C	k.demachi@tufs.ac.jp
中山 裕美	国際政治学、国際協調、地域統合、移民・難民問題	830A	yumi-nakayama@tufs.ac.jp
松隈 潤	国際法、国際機構論	550	jmatsukuma@tufs.ac.jp
松永 泰行	比較政治学、政治社会学（争議政治）、国際関係論	524	matsunaga@tufs.ac.jp
若松 邦弘	比較政治（西欧）、福祉・移民・環境など社会争点政治	661	kwakamat@tufs.ac.jp

2022 年度　国際社会学部　学部運営体制

学部長	真島 一郎
副学部長	大川 正彦
地域社会研究コース　コース長	宮田 敏之
現代世界論コース　コース長	加藤 美帆
国際関係コース　コース長	篠田 英朗
学部長補佐（入試担当）	菊池 陽子
学部長補佐（教務：カリキュラム担当）	倉田 明子
学部長補佐（教務：ゼミ選択担当）	青木 雅浩
学部長補佐（学生担当）	福嶋 千穂
学部長補佐（広報・点検評価担当）	中山 裕美

地域代表教員

北西ヨーロッパ	伊東 剛史
中央ヨーロッパ	篠原 琢
西南ヨーロッパ	芹生 尚子
イベリア	久米 順子
ロシア	巽 由樹子
中央アジア	木村 暁
東アジア	藤井 豪
北アメリカ	大鳥 由香子
ラテンアメリカ	内山 直子
アフリカ	大石 尚典
オセアニア	山内 由理子
東南アジア	宮田 敏之
南アジア	東城 文柄
中東	青山 弘之

※作成にあたって TUFS Academic Support Center、学生相談室、附属図書館のご協力をいただきました

東京外国語大学　国際社会学部の歩き方

2022 年度入学生版

2022 年 3 月発行

東京外国語大学　国際社会学部

表紙デザイン：國末　晶

（地域社会研究コース　西南ヨーロッパ／フランス語　3 年生）※学年は発行時